



# shiga 食育推進プロジェクト 活動報告新聞

## shiga 食育推進プロジェクトとは？

県大地域食育推進隊「Shiga 食育推進プロジェクト」は、滋賀県立大学の生活栄養学科と生活デザイン学科の学生が中心となり、平成22年度に立ちあげたプロジェクトである。生活栄養学科は大学で学んだことを生かして食育の実施、各団体が実施する食育事業に参加・支援を行い、生活デザイン学科は食育事業においてトータルなデザインサポートを行うことで、魅力的な空間づくり、食育をより効果的に行うことのできるツール等を制作している。行政、地域の各種団体、大学が連携した食育推進活動を様々な方法で行い、学生が主体となった組織的なプロジェクトであり、地域食育推進のモデル大学となることを目指している団体

発効日 2013年3月31日(金)  
発行 県大地域食育推進隊

## ☆BIG NEWS☆

# 元気フェスタ

10月8日(土)に県立彦根総合運動場内にて開催された元気フェスタで、彦根の特産物である「彦根梨」を使った焼き菓子を販売し、地産地産をアピールしてきた。彦根梨の焼き菓子は、今年度試作を何度もくりかえし、開発までこぎつけた。大好評で、1時間で200個を完売することができた。他にも、炊き込みご飯や豚汁など30店舗ほど出店されていた。体育館では、体カテストや血糖値測定なども行われており、彦根市民に健康増進を呼び掛ける一大イベントであった。



## nakaniwa cafe

滋賀県立大学生活協同組合、栄養士会と連携して、昨年度に引き続き開催した。今年度は6月と11月に、骨密度測定や牛乳&ケーキセットの販売を行った。今年度は新たに野菜を使ったパウンドケーキを開発し、大好評であった。栄養士さんによる食生活相談や体組成測定も行われた。去年度に引き続き、骨密度測定時に測定結果の冊子を配布したり、骨や食生活についての情報ポスターを貼ったり、健康メニューのレシピを配布し、学生に「食」について興味を持ってもらえるよう、工夫した。



## 平和堂 5 A DAY

11月に若葉小学校の3年生を対象に行われた5 A DAYの支援を行った。内容は、教室で野菜や食生活についての勉強をし、その後ミッションに沿って野菜をお買いものするというものであった。



## 連続食育教室

7月から11月にかけて、計6回の連続食育教室を開催した。調理を伴う食育教室を実施する中で、子どもたちが食に興味をもつようになった。彦根市教育委員会後援、第1・2回で他近江楽座団体のとよさらだとコラボ。



## ひこね食育フェ

6月18日(土)にひこねビバシティにて開催。県大地域食育推進隊は、ブースで骨密度測定&びわこ牛乳提供を行い、舞台上でひこねちゃんと共に食育クイズを行った。他近江楽座団体である未来看護塾とコラボし、骨密度測定後に未来看護塾が行う血圧測定等へと移動できるように、ブースの配置を行った。



## 冬野菜収穫体験

株式会社平和堂の食育活動の支援を行った。白菜の収穫や調理実習の補助、食育クイズを行った。参加者は、親子12組24名で、参加スタッフは12名であった。白菜をふんだんに使ったレシピは好評であった。



## 地域の声

株式会社 平和堂 岡井様より

「冬野菜収穫&親子料理教室」では、食育推進隊のみなさまが多数参加してくれたおかげで、白菜の収穫と料理教室を大成功に終わることができました。食育推進隊の食育クイズは、参加されたご家族にとっても好評でした。

彦根食育推進委員会 宮尾様より

「県大地域食育推進隊」による活動は、参加者にとっては大変興味深いものばかりで、活動が参加型になっていることもあって、楽しく参加ができ、食育への関心が高められる取り組みにもなっていました。参加いただいた方からは、「県大のブースは興味深かった」、「彦根特産を活用した食べ物は非常によかった。またしてほしい」、「食育が楽しく学べた」などの多くの声をいただきました。いろいろな角度からの食育啓発活動の発信は、幅広い食育に対し、「楽しく」、「一緒に」、「体験型で」を感じてもらえ、今後も積極的な参加をいただくためにも、一緒に食育推進活動に取り組んでいけることを期待しております。

## 1年間の活動を通じた成果と課題

今年の食育教室の成果としては、昨年度に引き続き、大学や地域、各種団体と連携して様々な食育活動を行った事である。地域の食育を進めて行く上で、継続して行うことの大切さを改めて感じている。食育フェアやnakaniwa cafe、高齢者施設での骨密度測定においては、毎回楽しみにして下さっている方がたくさんいらっしゃることを知った。そういった方々に今後も継続して食育活動を行い、健康意識を高くもってもらえるようにしたい。

1年間の活動を通して、各食育イベントは、自分の生活や食事について振り返る良いきっかけとなっていると感じた。また、地域の方との交流の場、学びを深めることのできる場でもある。これからも、学生を中心として、彦根食育推進委員会、平和堂さん、大学の生協さん、栄養士会の栄養士の皆様、近江楽座の他団体などとの連携を取っていき、大学・地域・行政とが一体となって行う食育活動を継続し、広めていきたい。

## あかりんちゅ

プロジェクト紹介

今年で4年目のプロジェクトで寺院や結婚式場等から頂いた残燭をリサイクルし、キャンドルを作り、地域でキャンドルナイト、キャンドル作り教室、キャンドルの販売を実施し、エコでスローな夜を広めようと活動しています。人々にリサイクルの姿勢を伝え、廃棄されるはずであった燭を再利用することで、地域の残燭の有効利用に繋がります。また、キャンドルナイトを実施することで地域の人々が集える癒しの場を地域に創りだします。

## 新

ビッグニュース

メンバーを迎え、総勢22人になりました。政策計画中心のメンバーから、地域、デザ、栄養、国コミュ、そして工学部の男子メンバーと個性豊かなメンバーが集まり、新体制になりました。

## 成

「ちょっと聞いてよ！プロジェクト自慢」

果が認められ、花開く1年間でした。国際ソロプチミスト彦根さまより活動を表彰していただいたり、皇太子殿下に活動紹介をさせていただく機会をいただいたり、学校紹介VTRに出演させていただいたり、3年間活動してきたことが評価され、数多くの素敵な機会をいただくことが出来ました。

## 信

地域の声

頼を得ることで、毎年実行委員として参加している彦根キャンドルナイトで「テーマ設定」「キャンドルの配置設計」「配置場所」「使用場所の許可交渉」「イベントスケジュールの調整」等、事業の中心となる全体設計をあかりんちゅが担当させていただ



01

04

03

02

07

06

05

### 活動写真

- (01) かき氷キャンドル
- (02) ひこねキャンドルナイト
- (03) 守山ほたるパーク&ウオーク キャンドルナイト
- (04) 彦根市小泉町キャンドル作り教室
- (05) グラデーションキャンドル
- (06) 満ち家キャンドルナイト
- (07) あかりんちゅメンバー



## 4

1年間の活動を通じた成果と課題

取り組みが出来た訳ではありませんが、チームとしての活動の基盤を作ることが出来た1年でした。各メンバーが班に分かれ新体制で活動を行い、ひとりひとりに役割を任せることで責任感を持ち、活動に取り組むことが出来ました。また、各活動で計画をたて、スケジュールの管理をし、活動後は報告書の記入、ブログの更新という一連の流れを作りしました。これにより、活動をスムーズに実施することができ、報告書の記入により活動を見つめ直すことで、反省点を次の活動に活かし、よりよい活動が実施でき、来年度以降の継続的な活動につながる基盤ができました。

## 夢

は何？今年1年間の活動を通して浮かびあがってきた課題です。活動の軸が安定し、基盤ができた今、あらためて長期的なビジョンを描き、それを実現するための明確な目標を掲げ、主体的に動くことが必要だと思います。5年目のあかりんちゅは活動拠点の問題など大きな転機をむかえます。チームみんなで乗り越え、成長していきたいと思

# 琵琶湖の在来種

守ろう

## ? 滋賀県大 BASSER'S って?

滋賀県立大学の学生団体「滋賀県大 BASSER'S (バサーズ)」は琵琶湖の外來生物問題に学生として何かしたいとの思いから、釣り好き、魚好き、生き物好きな学生が集まって発足した。学生として他の学生や地域へ働きかけ、地元の水域環境を守ることを目的としている。主な活動は、琵琶湖の内湖における月2回ほどの外來魚駆除と在來魚類のモニタリング。獲った外來魚はできるだけ胃の内容物や耳石による年齢の確認も行なっている。そのほか、侵略的外來植物ナガエツルノゲイトウの駆除や、外來魚駆除釣り大会やイベントの自主開催、学生向けの勉強会や近隣大学への出張講義、大学祭でのブース出展もしており、地域との連携、活動の展開が期待されている。



ブラックバスを食べる!?  
湖風祭「バス屋」にて

## バスボール販売

—そして完売!

昨年十一月の湖風祭、滋賀県大 BASSER'S はたくさんの方にブラックバスのおいしさについて知ってもらおうと、「バスボール」を販売しました。「バスボール」とは、ミンチにしたブラックバスに調味料やつなぎを入れ、ミートボール風にして揚げた、滋賀県大 BASSER'S オリジナルのブラックバス料理です。

今後このような啓発イベントを継続して、また無事故で開催していきたいと思えます。

昨年十月、滋賀県大 BASSER'S では、地域の人に川遊びの楽しさを知ってもらうために、「お魚探検隊」という魚とりのイベントを彦根市不飲川にて開催しました。開催当日、川の水位が予想以上に下がっており、魚がいないのではないかと懸念されましたが、実際に川に入ってみるとたくさん魚やエビが確認されました! なかには外來魚の姿も... 参加していた人からは、「こんなに浅くてもこれだけの生き物があるんですね。」といった驚きの声もいただきました。「この魚はなあに?」「おっ! 珍しいね。このお魚は... っていうんだよ。」などの楽しそうな会話があちこちで聞こえました。イベント当日はメンバーそれぞれがしっかりと自分の役割を確認し、事故もなく、安全なイベントを開催できました。このイベントを開催するのと、特に地域の子供たちに水辺の環境について関心を持ってもらう良い機会を提供することができました。



開催当日、川の水位が予想以上に下がっており、魚がいないのではないかと懸念されましたが、実際に川に入ってみるとたくさん魚やエビが確認されました! なかには外來魚の姿も... 参加していた人からは、「こんなに浅くてもこれだけの生き物があるんですね。」といった驚きの声もいただきました。「この魚はなあに?」「おっ! 珍しいね。このお魚は... っていうんだよ。」などの楽しそうな会話があちこちで聞こえました。イベント当日はメンバーそれぞれがしっかりと自分の役割を確認し、事故もなく、安全なイベントを開催できました。このイベントを開催するのと、特に地域の子供たちに水辺の環境について関心を持ってもらう良い機会を提供することができました。



販売当日はメンバーも驚くほどの大盛況。予定終了時刻前に完売することができました。食べた人からは、「ブラックバスってこんなに美味しいんだ。」や、「いれっつてどうやって作ってるんですか。」などの声があつた。ただの釣り魚、臭いから不味いんじゃないのか、といった一般的な考えを覆すきっかけを多くの方に提供することができました。

滋賀県にある一般の食堂で普通に販売されていたりします。しかし今回ブラックバスを販売するにあたって、初めてブラックバスを食べるメンバーもたくさんいました。あまり知られていないブラックバスの利用価値は、実は意外と高いのかもしれません。

ブラックバス料理は、滋賀県にある一般の食堂で普通に販売されていたりします。しかし今回ブラックバスを販売するにあたって、初めてブラックバスを食べるメンバーもたくさんいました。あまり知られていないブラックバスの利用価値は、実は意外と高いのかもしれません。



## 地域の声

私自身はイベントへの参加はできなかったが、地域の子ども会を通して協力できました。地域から学生さんの主催するイベントに参加する子どもたちもおり、よかったと思います。

今年度も滋賀県立大学の学生さんは活発に活動されておられました。また、今年度からは船も使って活動がされており、船の係留の際にはこちらとうまく体制を作ってくれたと思います。これからも船を使ったり、イベントを開催したりして、これまでのように頑張ってください。

薩摩町自治会長 村井 光雄

今年を  
振り返って

今年度、滋賀県大 BASSER'S では、通常の駆除活動、生態調査や外來種についての勉強会に加え、お魚探検隊や実際にブラックバスを食べてもらうなど、啓発活動にも重点を置いて活動を行なった。外來種問題の解決には、一般の人々の意識も変えていかなくてはならないのである。また、我々の活動は学生だけでなされるものではなく、地域の水辺での駆除活動は地域の人々の協力、イベントはその参加者なしに進められないものだ。神上沼で活動ができるのは、周辺地域の人の協力があるからにはかならない。我々の活動を知っていただいていたりと、様々な場面で地域の人々と直接的、間接的につながっていることを感じた。今後は、通常の駆除、啓発活動を怠ることなく継続し、加えて地域とのつながりを深くよりできるような企画を考え、滋賀県大 BASSER'S と地域が一体となって地元の水辺を守る活動を展開させていきたい。



# 県立大学工学部棟 菜の花・ひまわり栽培開始

## 菜の花エネルギー



**菜の花で資源循環**

菜の花エネルギーは、地域の資源循環型社会の形成を目指すプロジェクトで、彦根市の休耕田および学内を利用したバイオディーゼル燃料の原料となる菜の花の栽培や小学生・高校生を対象としたエネルギー教育講座などを行っている。



菜種の刈取り =6月1日、県立大学工学部棟畑で

## 菜の花栽培

彦根市稲枝町にある休耕田での菜の花栽培に加え、県立大学の工学部棟でも栽培を実施した。この取り組みは、県立大学の教員および学生や工学部棟への来校者への活動

を狙いとしている。また、本学での栽培は、休耕田よりも管理しやすい環境にあり、菜の花の成長の微妙な変化にも対応しやすい。なお、収穫した菜種は、菜種油となり、天ぷらなどに利用し廃食油を回収、その後、廃食油を燃料とするバイオディーゼル燃料を製造し、農業機械に利用し再び栽培することで、菜の花を通じた「資源循環」を実践した。

## ひまわり栽培

工学部棟畑では、畑の有効利用とひまわりでも「資源循環」ができることをPRするために、菜の花とひまわりの二毛作を実施した。夏場の水不足で枯れかけたものの水やりを毎日実施することで栽培に成功。しかし収穫の際に、鳥の被害に遭い、十分に収穫できなかった。



ひまわり満開=6月1日、県立大学工学部棟畑で

ひまわり種まき=6月1日、県立大学工学部棟畑で

## 高大連携授業 今年度も順調



BDF製造授業 8月23日、工学部棟内で

今年度も、虎姫高校の2年生(理系)が来校しエンジン講習および燃料作りの講習を受けた。講習では、バイオディーゼル燃料を高校生につくってもらい、その燃料で動く「バイオディーゼルクート」に試乗するなど、エネルギーに関する体験をした。燃料作りでは、軽油とバイオディーゼルの違いや、再生可能エネルギーについても指導した。バイオディーゼルクートの試乗は今年度も好評で、動いた時には歓声が上がっていた。

また、菜の花エネルギーのメンバーが受験勉強や進路の相談に乗るなど、講義内容以外にも高校生にとっては収穫がある内容となった。この鳥雲によって、工学部や実験に興味を持った生徒を増やしていきたい。

## かき揚げ 大好評!



かきあげを食べるイベント参加者。3月3日、大津市皇子山で

びわ湖毎日マラソン環境キャンペーンふれあいテント村にブースで出展した。今年度は、畑で作った菜種油と近江楽座「とよさ」から提供して頂いた野菜を用いてかきあげと一緒に販売した。また、手のひら発電やバイオディーゼルクートの展示も実施し、地域の方々への広報活動も行った。びわ湖毎日マラソンは、滋賀県民だけでなく他府県の方も多く参加されるイベントであり、幅広い地域の方に「菜の花エネルギー」を知って頂くことができた。昨年も参加してくれた地元の子が、今年もカートに乗りに来てくれた。どんどんピーターが増えていくイベントにしていきたい。

## 今年度はブラジル人学校も訪問

今年度の小学校出前授業は、若葉小学校(4年生2クラス)と城北小学校(4年生1クラス)の2校を訪問した。また今年度は、近江楽座「バンデイラ・ジ・オウロ」からお誘いを受け、ブラジル人学校・サンタナ学園にも訪問し、15歳以下のクラスを対象に授業を行った。初めての取り組みで戸惑うことが多かったが、氷と手のひらの温度差を利用し、熱電素子によって発電する「手のひら発電」体験は、好評で、夢中になって取り組んでいた。



## 成果と課題明らかに

菜の花栽培は、収穫量は昨年度に劣るものの、菜種油を精製し、農家の方との天ぷら会やびわ湖毎日マラソンで使用し、廃食油を回収、その廃食油を原料にバイオディーゼル燃料をつくり、栽培やイベントに使用する資源循環が実践できた。今後も菜の花を通じた資源循環を実践し、さらに収穫量も安定するよう農業の知識も深めたい。また、今年度はヒマワリを、栽培し、活動アピールと畑の活性化につなげることができた。また、今年度は近江楽座の団体(とよさ)と、とよさと快蔵プロジェクト、バイオエネルギー・オウロや菜の花学会における他の菜の花プロジェクトの団体との交流など、多くの団体と関わることでできた。環境教育授業に関しては、授業のベースを交えることはなかったが、継続的に実施できた。今後は、「親子で参加できるイベント」に発展させていきたい。

劇「バイオディーゼルで地球を救おう!」。6月7日、彦根市立若葉小学校で

「手のひら発電」を体験する生徒たち。9月28日、サンタナ学園で。

おうみの暮らしかたろぐ

## cococu news peper

発行日：2013年3月31日  
編集：cococu編集部  
発行元：近江楽座事務局

### 取扱店増加中!

mt	朴	竹書房
SYNER	vokko	レティシア書房
in-kyo	叶匠寿庵	風の駅
Lykkelig	shiroiro-ie	蟲文庫
Caro Angelo	misain-ya	451 BOOKS
半月舎	Ogama	UTA NO TANE
Caro Angelo	KEIBUNSHA	Ji Bussetto



特集記事では、朽木で活動するフォトグラファーや障害児者施設のびわこ学園、比叡山延暦寺の元三大師堂を訪ねて、あまり知る事の出来ない『滋賀の日常』を取り上げました。その他、連載企画の『徒歩タビ』では謎の北海道トンネルを目指します。『cococu 工場見学』では、滋賀で唯一の花火店を見学。そこには素敵な『まちの花火屋さん』の姿がありました。

vol.4の特集テーマは“おうみのあそび”

2013年3月14日、『cococu おうみの暮らしかたろぐ』vol.4が発刊されました。

今号のテーマは“おうみのあそび”。レジャーやホビーだけではない、滋賀の暮らしの遊び心や日々のゆとりに焦点を当てた内容となっています。

cococu編集部では一年の活動を通じて、滋賀全域を取材し、いろいろな『滋賀の暮らし』を見て、聞いて、体験してきました。そこで感じたささやかな日々の魅力を記事にし、みなさんにお伝えします。

『cococu おうみの暮らしかたろぐ』は、全国の取扱店およびcococu編集部にて販売中。彦根市内は、半月舎 / ほっこりカフェ / Vokko / Caro Angeroなどで取り扱っています。

詳しくはcococu blog (<http://oumicococu.exblog.jp/>)にて。滋賀の魅力を伝える一冊、ぜひ手に取ってみてください。

### 一年の活動を通じて



朽木、余呉、比叡山...と、滋賀県全域へ赴いたcococu編集部。連載企画の『徒歩タビ』取材ではハプニング有り、偶然の出会い有り。釣りをしているおじさんに突撃取材をすると、その日の釣果を披露してくれました。

ほとんどのメンバーにとって初めての経験となる雑誌制作。手探りながら、何事もまずやってみる!という気持ちで、滋賀全域を駆け回りました。記事執筆などの編集作業は大変ですが、メンバー自身が楽しみながら、取材を通じて感じた“滋賀”をいかに読者に伝えるかを考え、cococu vol.4が完成しました。

また、vol.4の制作と並行して行ってきた広報・営業活動の効果もあり、書店や図書館から扱いたいとの声がかかるようになりました。cococu創刊から4年、地道に活動を続けてきた成果がじわじわと広がっているようです。今後も発行を重ね、身近にある滋賀の暮らしの魅力を記録し、伝えていきたいと考えています。

### 地域の声

cococu編集長から打診を頂いた時のこと。確かその時に「大丈夫?僕を、しかも特集で取り上げて...?」と切り返したように思いますが、しかしさすがは自主運営のリトルプレス誌、僕の不安をよそに取材に来て頂き、この度のvol.4として刊行されました。これは色々な意味を含めて既存のマスメディアでは、かなり難しいことなのではないでしょうか(笑)  
お金やマス理論の影響が及ばない小さな体勢による純粋なテーマの追求...  
お金やマス理論を第一とはしない小さな地域やグループ、そして個人...  
そんな両者が出会うところに何か大切なものがあるように思います。  
今まで見えてこなかったもう1つの湖国の姿を、僕たち読者に発信するcococuをこれからも応援しています!

フォトグラファー 尾崎正樹

おうみの暮らしかたろぐ

### cococu とは?

滋賀の魅力を伝える雑誌、『cococu おうみの暮らしかたろぐ』。食や文化、風景、歴史に恵まれた、当たり前のように、実は豊かな日常。観光雑誌には載っていない滋賀ならではの暮らしを伝えていきます。

おうみの暮らしかたろぐ  
**cococu vol.1**  
2010年3月31日発行 定価525円(税込)



特集 おうみの暮らしかた

情報誌には載っていない滋賀の“ほんとう”を求めて、日常の暮らしを楽しむ方々の住まいにお邪魔しました。今の暮らしにたどり着くまでのいきさつは違えども、それぞれの滋賀に馳せる確かな想いがそこにはありました。  
グンさんの台所から / おくさま対談 / 徒歩タビ  
連載 shiga collection!! / 地名に想いを馳せる  
こちえ / おうみのふみくら  
コラム こくをかたる

おうみの暮らしかたろぐ  
**cococu vol.2**  
2011年8月31日発行 定価500円(税込)



特集 おうみのしごと

仕事、なりわい、職、商い、働くということ。伝わる技や文化、そこにかける想いを知るために、滋賀の暮らしの中にある“しごと”を見つめます。  
cococu工場見学 / ガリ版のふるさと / 徒歩タビ  
連載 shiga collection!! / 色に想いを馳せる  
こちえ / おうみのふみくら  
コラム こくをかたる

おうみの暮らしかたろぐ  
**cococu vol.3**  
2012年3月14日発行 定価500円(税込)



特集 おうみをたべる

“食べる”ということの周りには自然があり、文化があり、団欒があります。特産品や名物料理だけでは見えない、その土地の日々の暮らしを覗きました。  
cococu工場見学 / 滋賀の赤かぶ / 徒歩タビ  
連載 shiga collection!! / 路に想いを馳せる  
こちえ / おうみのふみくら  
コラム こくをかたる

湖東地域の魅力を掲載した冊子である「湖東暮らしの教科書」の多賀町編の作成を依頼され、私たちTTP、多賀町、湖東地域定住支援ネットワークが協力し合って作成に当たりました。「多賀暮らしの教科書」作成において私達が担当したことは、取材と編集です。この取材と編集を上回生が中心となって、TTPメンバー全員で1年かけて行いました。完成したものは、多賀町による地域振興の説明会などで配布されることが予定されており、多賀の魅力をより発信していくために役立てられたら幸いです。教科書作成に携わったことによって、1回生にとってはより深く多賀のことを知るきっかけとなつたし、上回生にとっては今まで気づかなかった多賀の魅力を見つめ直す機会となりました。今後は、今回の経験を生かしたプロジェクトの運営や図鑑の記事制作をしていきたいと考えています。

## 01 ▶Big News 暮らしの教科書作成!

**八百秀アパート庭プロジェクト**八百秀庭プロジェクトとは、今年度から始動したプロジェクトで、TTPの活動拠点である八百秀アパートの庭を活用していくプロジェクトです。今年度は、荒れ果てていた庭を整備し、庭の一部に白菜と大根を植え、畑として利用しました。今後は庭の利用方法について検討を重ねていき、庭を中心としたイベントの開催や、庭を通して地域の人々に関わるということを実現させたいと考えています。

**たがのぞき探偵団プロジェクト**たがのぞき探偵団プロジェクトでは、様々なテーマで多賀を探検したり、多賀のおもしろいところを発見したりして、その内容を記事にまとめています。今年度は多賀の家庭の味を調査した“多賀弁当”、多賀に実際に住んでいる方の家に泊まって多賀のリアルな生活を調査した“多賀に泊まろう”、なかなか活動することのない時間帯である朝に焦点を当てて多賀の魅力を調査した“朝の多賀”という記事を作りました。今後も様々な視点から多賀を取り上げて、新たな多賀の魅力を発信することにつなげていきたいと考えています。

**八百秀アパートプロジェクト**八百秀アパートプロジェクトは、イベントの開催などを通して、活動拠点である八百秀というアパートを運営していくプロジェクトです。今年度は、一箱古本市の開催はもちろん、新たにハロウィンパーティー、映画祭といったイベントを開催しました。また、八百秀アパートの庭の整備にも力を入れ、畑として活用しました。今後は、一箱古本市に次ぐイベントを確立し、庭をさらに活用させたいと考えています。

**有線放送プロジェクト**有線放送プロジェクトとは、今年度から始動したプロジェクトで、TTPが多賀町有線放送で月一回5~10分のコーナー番組をやらせてもらうプロジェクトです。番組内容としては、メンバーと地域の人々との対談やTTP主催のイベント風景といった様々なものを放送しました。このプロジェクトによって新たに地域とのつながりが生まれ、地域との関係をより一層深いものにできたと考えています。

**各種イベントへの参加**今年度も、多賀町で行われる様々な行事に参加しました。例えば、夏に行われた万灯祭ではまちを踊りながら練り歩く“練踊り”に参加させてもらったり、ふるさと楽市では今年も子供たちを対象としたゲームコーナーを担当させてもらったりしました。こうした多賀の行事に参加することで、地域の人々と交流を深めることで、地域の人々と交流を深めたり、より多くの人たちにTTPの存在や活動を知ってもらったりしています。

## 02 ▶プロジェクト紹介 平成24年度の活動内容

# 活動報告ニューズペーパー Taga-Town-Project

TTPの活動は八百秀アパートプロジェクトと色人図鑑プロジェクトを軸としていて、イベントの計画・運営、地域の方へのインタビュー・取材・記事制作といったことが主な活動内容です。しかし、私達の活動はこれだけに収まらず、祭といった地域の伝統行事への参加、有線放送内での番組放送、八百秀アパートの庭を利用した園芸等、多分野に及んでいます。そのためあって、TTPでは様々な学科に所属する人が活動しており、自分の専門分野を生かして活動している人がたくさんいます。つまり、TTPでは自分の興味・関心に応じた活動をする事ができるのです。自分のやりたいことができるという点で、各々は積極的に行動することができますし、そういったメンバーの姿勢がより一層実りのある活動につながっていきます。また、自分のやりたいことができるために、多くのメンバーがプロジェクトを運営する担当として活躍しており、1回生のうちから責任感を持った活動ができています。

多賀にTTPあり、といったカンジでしょうか。年を経るごとにだんだんと存在感をアップさせていますね。ただ、まだまだ馴染みのない方も多いと思いますので、多賀で過ごす時間が増えるといいと思います。せっかくの「八百秀アパート」、もっともっと自分たちの居場所にすればどんどん楽しくなると思います。若い人たちの笑顔ほど、まちを元気づけるモノはありません。多賀のおもしろいコト、もっともっと見つけて、どんどん発信して行って下さいね。期待しています。ただ、学生の向こうで指導されている方や、学校の存在が地域の中で見えて来ないのいいのか、悪いのか…

1年間の成果としては、暮らしの教科書作成もあってメンバー全員が精力的に活動できたことです。一人一人に役割が与えられ、責任を持って行動することが求められる中で、話し合いの場を設けたり、互いに協力し合ったりしながら、1つのチームとして活動することができました。今年度新たに19人の1回生が加入したことで一気に所属人数が増えましたが、上回生を中心としてしっかりとメンバー間の関係を築くことができたことは、今年度の大きな収穫だと考えています。課題としては、活動の見通しを立てられなかったことが挙げられます。個々の活動については、早い段階から計画できていなかったことにより、実行までのスケジュールに余裕を持てなかったことがありました。また、1年間全体の活動の見通しを立てていなかったことが、行動の遅れに繋がったと考えています。今後は、チームの活動目的を明確にするためにも、メンバー間で意識を共有するためにも、1年間の見通しを立て、各々が自覚を持って行動できるようにしたいと思います。

## 03 ▶ちょっときいてよ!プロジェクト自慢 やりたいことができる!

## 04 ▶地元の声 アツい!多賀の人々

## 05 ▶1年間の活動を通じた課題と成果 活動に見通しを!



# とよさらだ新聞

## とよさらだ今年度の

# ビッグニュース

### ビニールハウスの張り替え

2012年、とよさらだプロジェクト(以下「とよさらだ」と省略)は活動4年目を迎え、JAの方や地域の方々の協力を得ながらビニールハウスを張り替える作業を行いました。

とよさらだが現在使用しているビニールハウスでは、張替え周期が4年程度のビニールを使用しており、とよさらだの活動年数とともに光の透過性が悪くなっていました。そこで、JAの方や森さん近所の方々など様々な方々から指導を受けながら6月23日土曜日と翌24日曜日にビニールの張替えを行った。

当日は風が強く、一日目の天候に恵まれなかったものの、二日目はよく晴れた張替え日和となった。4年間使用したビニールは日に焼け、煤けたような状態で、透明度が失われていたのがよくわかった。古いビニールはその後、譲って欲しいと声の上った豊郷町の農家の方の手に渡り、また活躍している。新ビニールハウスとともに野菜作り続けます。



(上写真)2008年当初のビニールと(下写真)張替えのために取り外したビニール

### プロジェクトの紹介

## 「とよさらだ」とは?

とよさらだプロジェクトは滋賀県犬上郡豊郷町で使われなくなったビニールハウスを用いて、地域の方々に技術指導を受けながら野菜を栽培しており、自分達が栽培した野菜を大学生協や彦根市の農産物直売所などに出荷し販売しているプロジェクトである。



- 活動の目的
- 一、地産地消の促進や安心・安全である農産物に頼らない方法で栽培した野菜を提供する。
  - 二、野菜作りを体験したことのない学生に機会を与える。
  - 三、地域とのつながりを持つ場をもつ。

### 農家さんのお米作り

とよさらだは一昨年から、犬上郡豊郷町でお米を栽培している古川さんに「一反の水田を借りており、その水田に「米作り体験」をしています。5月6日に田植えを体験させていただきます。収穫まで毎月何回か水田の周りの雑草刈りを手伝っている。9月中旬にはお米の収穫のお手伝いもさせて頂きま

収穫したお米は湖風祭などのイベントで使用しています。



(写真)収穫後の記念撮影

## ちょっと聞いてよ! プロジェクト自慢

### 彦根市物産展に参加

11月3日・11月4日に彦根文化プラザの駐車場で彦根市物産展が行われ、豊郷町役場地産産課の方々に豊郷町のブースを一部貸してもらい活動を行った。豊郷町役場産課の方々と特産品の坊ちゃんかぼちゃの宣伝を行った。とよさらだは坊ちゃんかぼちゃのパウンドケーキと、さつまいものスイートポテト

### 活動内容の充実へ

聖泉大学CLCセミナーでは野菜を具にした5種類のおにぎりの販売を行うなど、今年度参加したその他のイベントでは出店の内容もさらに充実し、販売する食品の品目も大幅に増えた。他団体さんとの合同イベントではとよさらだの畑を見てもらい、どのよう野菜が成長していかかを知ってもらうことができた。食育の面で活動が活発になりました。



(写真)食育イベント調理中の様子

### 2012年度とよさらだ活動暦

4月	・「入学式」出展(5日) ・「農家さんの種落とし」参加(10, 17日) ・「近江楽座成果報告会」(14日) ・「近江楽座合同説明会」出展(19日)
5月	・「桜高新入生歓迎会!!」参加(5日) ・「農家さんの田植え」参加(6日) ・「近江楽座公開プレゼンテーション」(19日) ・「日本農業新聞」掲載(27日) ・「大学生協総代会」参加(29日)
6月	・「湖風夏祭」出展(16日) ・「ビニールハウス張り替え」(23, 24日) ・「環境系サークル合同説明会」出展(26日)
7月	・皇太子様ご視察(23日) ・食育推進隊さんの「食育教室」参加(28日)
8月	・「とつとまつり」出展(4日) ・食育推進隊さんと「食育教室」(18日) ・百菜劇場さんで勉強(29日)
9月	・「農家さんの稲刈り」参加(2, 24日) ・ビニールハウスの熱消毒開始(4日) ・一姓さんと草刈(17日) ・ビニールハウスの熱消毒終了(20日) ・「FWIIの稲刈り」参加(27日) ・「地域実践学習Iのインターン報告会」参加(28日)
10月	・「豊郷町民健康フェスティバル」参加(8日) ・「コスモス・パンキンフェスタ」参加(14日) ・近江楽座中間報告会(30日)
11月	・「彦根市物産展」出展(3, 4日) ・赤軸ほうれんそう試食会(7日) ・「湖風祭」出展(10, 11日) ・「聖泉大学 CLCセミナー」出展(17, 18日) ・「ヨツマルシェ」出展(25日)
12月	・「FM彦根 pm tunes(なまちゃ!さん)」出演(13日)
1月	
2月	
3月	・「びわ湖毎日マラソン」出展(3日)
その他	・「彦根市朝市」 毎月第3曜日

### 今年度の課題と成果

代表のレポート  
今や活動プログラムの顔となりつつある新代表高橋君が一年間を振り返ります。

本年度は、野菜の栽培面において失敗が多かった。収穫したジャガイモの保存方法が悪く腐らせた。また、このことについては、自身で栽培方法から保存方法まで勉強することが一番の改善策だが、勉強方法の一つは地域の農家からアドバイスをいただくことである。私たちが活動する豊郷町高野瀬の畑の近くには多くの農家が活動しており、声をかけて下さることも多い。話の内容には栽培方法に関するアドバイスもあった。今後はこちらから積極的に意見を求めることが、自身の成長につながると思える。本年度行えたこととして、**地域とのつながりを増やせた**ことがあげられる。昨年から引き続き豊郷町農家の古川さんと共に稲作を行った。また豊郷町農家の森久仁彦さんと「職員員の吉川さんの指導の下、ビニールハウスの張り替えを行った。豊郷町役場の方々から共に地域野菜の栽培を行った。

### 地域のこえ

豊郷町役場 産業振興課 大塩恭平

2011年から活動場所である豊郷町の農家の方と共に、豊郷町の特産品である「坊ちゃんかぼちゃ」を栽培する予定である。こうして地域の方と関係を築くと共に地域の活性化に努めていきたいと思う。

また**近江楽座内のプロジェクトと共同活動を行う機会が多かった**。とよさと快蔵プロジェクトさんが経営するタルタルガにおいて、とよさらだが栽培した野菜を料理に使ってもらうなど、**地域の方や学生たちに活動を知ってもらう機会となった**。一姓さんと大学そばの県大ファームにおいてサツマイモの共同栽培を行った活動をきっかけに、来年度はボランティアサークルHarmonyを行い、この活動をきっかけに来年度はボランティアサークルHarmonyさんと、子供たちを交えてジャガイモの収穫体験を行う予定である。

「とよさらだプロジェクトさんの2012年度の活動は、私たち豊郷町役場職員や豊郷町にとつて大きな効果があったと思います。とつとまつり、町民健康フェスティバル、彦根市物産展、町内農家との米作り等に企画、ご尽力いただいたことは豊郷町民および地域の活性化につながっています。若い力と発想は、行政や農家にとつてもよい刺激になっているかと思えます。今後についても、引き続き活発な活動をお願いいたします。具体的には、豊郷町特産品「坊ちゃんかぼちゃ」を町内農家と一緒に栽培する計画等があると聞いております。更なる豊郷町の活性化及びとよさらだプロジェクトの益々の発展を期待しております。」

今後の活動としては、ビニールハウスと耕耘機を一新したことで、**更なる野菜の栽培技術の向上と地域との密着である**。地域との密着については、

キッズ学芸員  
プロジェクト

# 夏のワークショップ開催!! 八幡の自然でつくる 私の楽器!



▲竹の搬出作業を手伝う子どもたち



▲完成したドラム

竹を使った楽器で演奏会を行っているバンブーオーケストラ「たけおと」さんのご指導のもと、DIG'Sメンバーで事前に加工した竹を用いて子どもたちとカスタネットとドラムといった竹の楽器づくりを行いました。

楽器をつくらう!

「八幡山の景観を良くする会」さんの間伐作業を子どもたちと見学させていただきました。八景会の方による簡単な説明の後、作業が行われ、子どもたちは間伐作業に圧倒されているようでした。また、中には搬出作業を手伝い始めた子どもも現れ、竹を身近に感じることができたようでした。

八幡山の竹林について知ろう!

音楽会をしよう!

自らつくった竹の楽器で最後は演奏をして締めくくります。練習時間は短かったものの、たけおとさんのご指導、子どもたちの熱心のおかげで、多くのお客さんに近江八幡の竹の音色を聴いていただくことができました。間接的ではありますが、様々な方に竹の魅力を感じていただけたと思います。

# DIG'S 新聞

2013年(平成25年)

3月31日

日曜日

DIG'S

ART FORUM 2012 DIG'S

—近江八幡市を掘り出せ—

## DIG'S ってなに?

近江八幡市の地域の魅力を発見し、多くの方に伝え、広める活動をしています!

市民と協力しながら、ワークショップを企画し、運営します。

地域を盛り上げることが目標です。また、地域とつながることのできる拠点を目指し、カフェ営業も進めています。

## ちょっと聞いてよ! プロジェクト自慢!!



市内施設のチラシを置いたり、近江楽座プロジェクトの商品を陳列したり、カフェ内のディスプレイを考えました。

カフェのエプロン作りしました!



## みんな好きなことしてます。

### 地域の方からのメッセージ

今回、竹を使った楽器づくりと演奏のご協力をさせていただいた、たけおとの額田です。予定したワークショップの開催日が地元の学校行事などと重なり、参加者の募集に手間取ったり、幼児から小学生まで、幅広い年齢層の参加者に合わせて制作する楽器の種類や大きさを検討したり...と、いろいろ大変なこともありました。

なかでも、私たちが毎年参加している「八幡堀まつり」での演奏に、ワークショップに参加した子どもたちが自作の楽器を持って参加してくれたことは、とても嬉しい思い出です。これからも頑張ってください。(バンブーオーケストラたけおと 代表 額田直子)



### 2012年度の成果と課題

どのようにすれば地域資産を掘り出せるのか学生内で意見をぶつけ合い、学生自らが主体となって活動できたと思います。昨年からDIG'S独自のワークショップを企画するようになり、地元の方に相談しながら企画・運営を行う必要がでてきました。テーマや目的などを伝えることは難しく感じました。

また、数ヶ月間ミーティングを重ねてワークショップを実現できたことは、自分たちの自信につながりました。このように学生が主体的に活動を進めることができたのは、地元団体の方の協力があったからこそです。

来年度からは学生が自主的に動くことはもちろん、さらに地域の方とのイベントを少しずつ増やし、地元を盛り上げていけるように計画を進めていけたらと思います。

## 地域のまつりにイベント出店!

毎年9月に近江八幡では、地域住民と観光客に市内の魅力伝えることを目的に2日間まつりを実施しています。夜間には八幡堀とその周辺の路上や施設をロウソクの灯で照らします。

### 観光客も地元住民も集う交流カフェ

カフェ営業では、まつりの時間に合わせて営業時間を延長し、まつり限定メニューも考案しました。

観光客や地元の方などが休憩に立ち寄ってくださり、私たちの活動を伝えるだけではなく、お客さんと町屋や市内の魅力を語り合う意見交換の場ともなりました。



### 竹と親しむワークショップ



ワークショップは、八幡山で行った楽器作りと同様のものをカフェ内で行いました。

一人旅の途中偶然カフェに訪れた社会人の方、ワークショップ目当てに訪れた地元の親子など参加理由は様々でしたが、地元の方だけでなく地域外の方にも八幡山の竹に触れてもらう良い機会となりました。

# 木興プロジェクト

## 田の浦地区集会所「ニューたのうらセンター」を建てる

### 木興プロジェクトとは

滋賀県立大学の建築デザイン学科・生活デザイン学科の学生による震災復興支援プロジェクト。2011年3月11日、東日本大震災が起きた。未曾有の事態を目の前にし、建築を学ぶ私たちに何ができるのか、何かしなければという思いをきっかけに立ち上げたプロジェクト。コアメンバーが例年木匠塾に参加してきたことから、ものづくりによる復興支援を目的とする修士一回生をコアに、有志が集まった修士二回生から学部一回生までの計21名で構成される。



**\*1加子母木匠塾**  
日本の山林と樹木の維持保全と利用のあり方を学ぶ。滋賀県立大学の学生と地元住民が1998年に岐阜県津市で結成された。滋賀県立大学は2007年から参加している。

**\*2NPO法人環人ネット**  
地域再生に対する知識や経験を有する人材およびその志を有する者を集め、その人的ネットワークを活用しながら、地域再生、地域活性化のための活動を行うことを目的とするNPO法人。

**\*3近江楽座**  
大学と地域の共同による地域活性化を目的とする滋賀県立大学の学生支援団体。プロジェクトを募集し、調査・研究・活動費を助成する。

**\*4田の浦ファンクラブ**  
田の浦の復興と活性化を目的として田の浦集落民によって結成された団体。田の浦に入るボランティア支援団体の受け口でもある。

### つながり

NPO 法人環人ネット\*2田中好一氏の紹介で田の浦というフィールドに出会った。資金面では環人ネット、近江楽座、滋賀県立大学後援会に助成して頂いた。田の浦ファンクラブ\*4に集会所の施主となって頂き、建設に至った。材木店や工務店等は、集落の方の紹介で現地既存のネットワークを活用させて頂いた。設計、施工、現地での生活まで、多くの協力のもと成立したプロジェクトである。

### 田の浦とは

宮城県本吉郡南三陸町歌津田の浦。リアス式海岸特有の優れた景観を持つ南三陸町の北西の沿岸に位置する。世帯数97戸 人口404人(平成17年度7月31日現在)の小さな集落である。養殖業が盛んで、ホヤ、ホタテ、ワカメなどが獲れる。東日本大震災では15m近い津波が押し寄せ、死者14人、行方不明者3人を出し、55戸が被災した。2011年7月の時点で35戸が仮設住宅での暮らしを強いられている。田の浦は震災当初、道路が遮断されて支援車両が通り過ぎ、ボランティアもほとんど入っていない取り残された地区だった。私たちの大学がある彦根から田の浦までの距離は900km、車で14時間である。

### 実施設計

コンセプトのみならず施工のしやすさも考慮し実施設計を行った。

- 基礎工事計画** 広い密着空間の再生をめざし 資金の限り可能な基礎を打設する
- 木工事計画** 軸組工法を用い 施工性の向上や竣工後の増改築の容易さを考慮
- 屋根工事計画** 地元板金屋の協力を得て 強い海風にも飛ばされぬ立上り屋根
- 内装工事計画** 居室としての 断熱環境を得る
- 外装工事計画** 地元材木店より提供頂いた不要な杉板を利用する



### 施工

8月2日～6日にかけて基礎工事、8日～19日で木・屋根工事、9月23日～28日で外装内装工事を行った。全24日間、木興メンバーは田の浦で暮らし、施工活動した。



### 基礎工事

基礎工事を素人である学生のみで行うことは、安全性の面でも大変難しいため、三浦工務店さんからご紹介頂いた佐藤組さんのご協力により、基礎工事から自分たちで行うことが出来た。素人仕事ではない要素を、佐藤組の千葉さんに行って頂き、他のほとんどの工程では、千葉さんのご指導の下自らが労働力となった。そのことで人件費を大幅に削ることが出来、また配筋など普段見ることのない作業を身を持って体験し学ぶことが出来た。基礎工事に関しては、学生一同本当に初めてのことであり、重労働が多いことから先発隊の体力を大幅に削った。

### 木工事 一切り出し・加工

木興プロジェクトは、木匠塾が母体となっている。そのため例年通り参加してきたメンバーが多く、木工事は私たちの腕の見せ所である。とは言っても、規模が大きいため加工箇所も多く、作業内容はハードであった。材選別に始まり、墨付け、罫書き、カット、仕口加工、立て方まで全てを木興メンバーが行った。また、道具をお借りしている三浦工務店さん、丸功建設さんがお仕事の合間を縫って度々訪問して下さり、材加工などを指導して下さった。幾度となく問題が起きても起きても乗り越えていったのは、多くの方の協力があってのことだ。仕口加工に苦労したが、木匠塾経験のある先輩が後輩に指導しながら作業を進めた。

### 木工事 一建て方

作業工程が遅れ気味の中、立て方に入る時にはメンバーみな緊張の面持ちで、土台・柱・梁・桁と慎重に組んでいた。段々と外形が見えてくると、みなより一層嬉々として作業に取り組み格段と作業のスピードが上がった。炎天下での作業のため体力の消耗が激しかったが、地域の方々からお声をかけて頂いたり、差し入れを頂いて休憩しながら作業を進めた。野地板まで木興メンバーで行い、ルーフィングと屋根仕上げは、環人ネットを通じて以前からのお知り合いである佐々木さんの旦那さんがたまたま板金屋さんだったことから、話が通じ、格安で屋根を葺いて頂いた。木興メンバー皆、足場に登り、佐々木さんの素早いプロの仕事に釘付けであった。

### 外装・内装工事

外壁仕上げとして、防腐処理に表面を焼いていく。バーナーでコツコツ焼いて、毎日手も顔も煤で真っ黒になった。焼いた杉板を壁に張る作業は人数を要した。そこで漁師さんたちが駆けつけて下さり、皆それぞれ自前の道具を持参し、フォークリフトも出して頂いて、学生と漁師共同してあっという間に外壁が仕上がった。例年通り木匠塾に参加しているメンバーも居室を手がけるのは初のことで、工事はかなり苦戦をした。配線との兼ね合いや、図面通りにはいかない現場に合わせて微調整を繰り返した。この内装工事で、大学の設計演習で図面を引くだけでは分からない、内壁と外壁の間や、窓サッシの複雑な世界を知った。



### 語らう

時には親しくさせて頂いている集落の方の家に招かれることもあった。時には連日のハードな建設作業を心配して花火をしようと誘って下さった。そこでは他愛もない会話と笑顔が沢山あり、「田の浦に来てくれるだけで嬉しいんだ」と言ってくれる。BBQをした際は「頑張ったんだからいっぱい食えー!」と、漁師さんたちが海の幸をたくさん振舞ってくれた。これらの交流や応援があったからこそ、私たちは我武者羅に作業を頑張れた。

### ニューたのうらセンター完成

8月、9月と計24日かけてニューたのうらセンターは完成した。完成時には、この地域に残る風習の餅まきをして頂いた。木興メンバーは集落の方が集まってくるギリギリまで作業をして体力も限界であった。しかし、集まった方の笑顔を見ると、疲れはどこへやら、その場の全員が笑顔になっていた。

### 「ありがとう」

私達は作らせて頂いている身である。お誂は素人の学生達が、土地を委ねられ、集会所を作らせてもらう。とても厚かましいことだが、集落の方々に「ありがとう」と言われる度に、私達にも支援することが出来るのだ、必要とされているものをつくったのだと再認識した。



### その後

10月初旬に、ニューたのうらセンターは早速イベントに使われた。滋賀県立大学「未来看護塾」による親子イベントであった。イベント以外でも何回か使用しているらしい。以前あった婦人会の活動や、おしゃべりの寄り合いでも、これから沢山センターを使ってもらえることだろう。そして、ここからは田の浦の方の意思でニーズに合わせて更に使いやすいうように変えていってほしい。



### 冬用カスタマイズ

ニューたのうらセンターの半屋外部を、冬より使ってもらえるように、取り外し式のビニールカーテンを制作し、設置を行った。設置した夕暮れには集落の人々とクリスマスパーティーをして盛り上がった。夜も雪が降る中、半屋外部で飲み会ができるほど、カーテンによって寒さが軽減した。

# 100周年の安土駅を考える

## 発足の経緯

安土駅は大正3年（1914年）に供用を開始し、来年度で100周年を迎えようとしています。その歳月を経て近江八幡市による「安土駅周辺整備事業」により生まれ変わるようとしています。駅は人々の交流の広場であり、まちのシンボルとして「まちづくりの核」となるもので、この機能を十分に発揮させるには、住民ができるだけ早い段階から駅づくりに参画し、自らの駅として愛着を持ち、育てていくことが必要と考えられます。

この考えに賛同する常楽寺の住民有志で「夢むすぶ安土駅の会」を平成24年1月25日に立ち上げ、4回の検討会が開催されました。その活動の目的と概要を左下図に示します。

議論はソフト、ハードの両面におよび単なる要望ではなく優先順位や代替手段を住民の視点から提案することが目指され、また、住民が新しい駅に何ができるのかということについても検討されました。

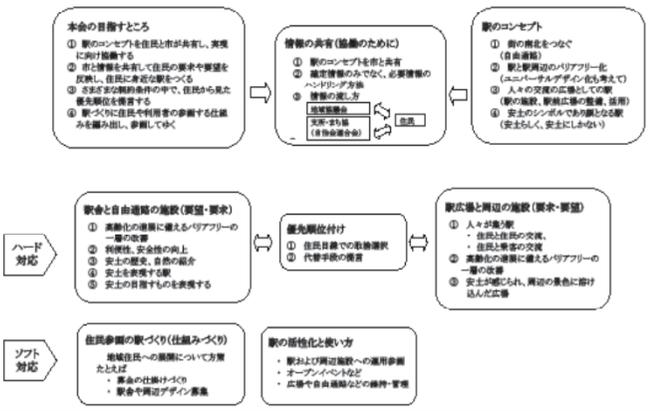
今後の会の運営は、常楽寺区内の活動にとどまらず、広く安土町の住民さらには安土駅の利用者にも加わっていただき議論を進めた方がよいとの結論になりました。これを受けて、「フォーラム・安土駅」が発足しました。

## 「フォーラム安土駅」とは

平成24年3月には近江八幡市より「安土駅周辺整備基本計画」が公開されたのを機に、「駅のまわりに住む人駅を利用する人が、新しい駅の誕生にできるだけ関わり、大きく育ててゆこう」との想いで人々が集まり、駅づくりを考える「フォーラム安土駅」の活動が始まりました。新しい駅のコセプトとして、駅と駅周辺のバリアフリー化、駅の南北をつなぐ、賑わいのある交流の広場となる駅、歴史風土になじむ安土らしい駅と考え、近江八幡市の安土駅周辺整備計画に協働する活動とします。

具体的には、基本姿勢、活動内容で行政との連携を軸に活動しました。この活動に自治会をはじめ多くの団体に参加をいただきました。

「夢むすぶ安土駅の会」の活動について



## あづちむとは

将来の安土駅について、安土に関わる様々な人々と意見を交わす場を設ける組織です。基本的にワークショップ（WS）を行い、地域の人々に参加してもらおうという活動形式です。そこでは様々な将来の安土駅の理想のイメージや利用方法などが議論され、その意見を集約することで、新駅の利用に活かすことを目的とします。

## 活動の進め方

安土の駅づくりの主な活動として、地域の人々と安土駅について考えることを目的としたワークショップを行いました。提示された市の基本計画に沿って安土駅周辺を現地検分し、WSで地元のついた議論ができるようにしました。

活動の前半で、8月の近江八幡市都市計画審議会とそれに伴うパブリックコメント募集が予定されており、このタイミングでハード分野の提言をまとめ、後半では、安土らしい駅、賑わいをつくる駅、住民と駅のかかりなどソフトの分野を「あづちむのえきづくり」としてWSを展開しました。

7月以降は、滋賀県の「にぎわい創出推進事業」の補助も受け、駅前商店街の活性化との関わりも含めて課題としました。

## WS活動記録

次に、えきづくりの衆知活動として新しい駅づくりに住民が関心を持ち、広く関わっていただくために新駅の広報とアイデアの募集を行いました。

そして、活動成果の提言として安土町地域自治会協議会を通し、フォーラム・安土駅の活動結果を近江八幡市の行政へ提言を提出しました。駅舎と広場のあり方（ハード分野）は先行して7月に提言し、活動完了時に「フォーラム・安土駅」の活動報告書を提出しました。



## WS活動記録

### 5月 図面を見ながら駅周辺歩き

駅周辺整備基本計画の説明の後、図面を見ながら駅周辺歩き、どこに階段がくるのかなどを、現地を歩いて確認。グループでの話し合いでは、現在の駅と計画案の良い点と悪い点、理想の駅についての意見を出し合いました。



### 6月 図面を見ながら駅周辺歩き

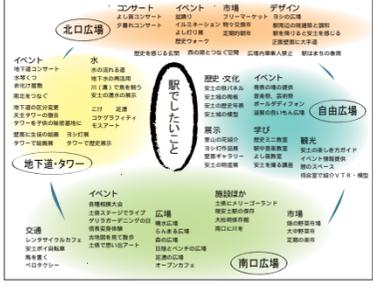
近江八幡市で募集されていたパブリックコメントに関連して、前回のワークショップで出た意見のうち、これに係る課題を取り上げました。



近江八幡市総合政策部安土駅周辺整備推進室より安土駅のパブリックコメント、篠原駅整備事業の進捗をご説明いただきました。また、県内のJR駅の事例紹介と北口・南口広場の試案の提案を行いました。休憩時間中も議論がとまらず、みなさんとても真剣に考えておられました。

### 7月 協議会への提言

「安土のステキを発信する駅」をテーマとして、ソフト面から駅づくりを考えるWSをはじめました。今回は「ワールドカフェ」という形式で開催しました。おやつを楽しみながら、駅に何を求め、駅で何をしたいかを語り合いました。



### 8月 ポテンシャルを活かす

県立大学の山上洋平先生を囲んで、安土の持っている資源、ポテンシャルについてじっくりと考えてみました。先生が取り組んでおられる「ふるさと絵屏風づくり」の活動から、どのようにして「安土のステキ」を見出し、安土駅のデザインや駅周辺でのイベントにつなげてゆかか話し合いました。



安土駅（昭和30年代頃とされる）

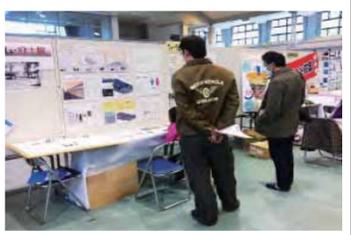
### 11月 8つのデザインキーワード

将来の安土駅を具体的に考えました。前回までのワークショップで話した内容をふまえて、一人一人が考える理想の安土駅を絵に描きました。一人ずつ発表をして、お互いの提案を聞き、全体で様々な駅の理想のイメージを共有することができました。安土城関連をテーマにする意見が多く、特に安土城は多くの方がイメージをされていました。また、自然や風景、水といった



### 広げる

安土町地域自治会文化祭（11月3・4日）、安土小学校「安土っ子フェスティバル」（11月17日）、安土町商工会「駅イルミネーション」（12月2日）にて展示などを行いました。



県立大学生のアイデアを見る来場者の方々

# ボランティアサークル Harmony 新聞

## \*プロジェクト紹介

ボランティアサークル Harmony は NPO 法人「障害者の就労と余暇を考える会メロディー」の支援活動を二年間行っている団体です。メロディーは地域の人の理解の中で普通の生活がしたい、働きたいという障がい者の願いを実現させるため、障がい者の社会参加を促進し、就労の自立を図るとともに余暇活動をはじめとした豊かで充実した社会生活を支援する団体です。Harmony はメロディーに所属する特別支援学校・学級、作業所などに通う自閉症やダウン症など他人とのコミュニケーションに困難が生じる障がい児・者とともに活動を行っています。Harmony の活動は「自分からは、楽しいこと、おもしろいことを見つめるのが苦手な子どもたちになんか」というメロディーの障がい児の保護者の方の呼びかけから始まりました。

私たちは障がい有する人と学生が互いに成長することを目的にして活動しています。子どもたちにとっての成長とは将来社会に出るために大切となってくる社会性やコミュニケーション能力を身につけるということ、学生にとつての成長とは、活動を通して新たな発見をすることや、円滑な活動の運営をするための能力を身につけるということです。

また、この活動を通じて地域の方と交流することで、障がい児・者を支える地域づくりの推進もできればよいと考えています。

障がい児・者の余暇活動や生産活動の支援、コミュニケーション力の向上、地域と障がい児・者の交流支援を目指して、今年度は定例活動（茶道、粘土工作、油絵、散歩）、カヌー体験、宿泊体験、クリスマスコンサート、餃子作り体験などの活動を行いました。



## \*チームのビッグニュース

Shiga 食育推進プロジェクトさんのコラボによる餃子作り

近江楽座の Shiga 食育推進プロジェクトさんとコラボして滋賀県立大学の調理実習室をお借りして餃子づくり体験を行いました。



Harmony は普段メロディーの子供たちとしか接することがありませんが、Shiga 食育推進この活動では Shiga 食育推進プロジェクトさんがよく一緒に活動している子どもたちの参加もあったので良い経験になりました。また、いつも食育という形で子どもたちと接している Shiga 食育推進プロジェクトさんの子どもたちへの接し方を見ることでできてとても勉強になりました。

## \*ちよつと聞いてよ!

### プロジェクト自慢

クリスマスコンサートにゆるキャラ登場

毎年恒例となったクリスマスコンサートは障がい者でも気兼ねなくいい音楽を聴きたいという保護者の方の思いから始められ、今年で10回目となりました。

前年度に引き続き今年度もいしだみつにやん、おおたににやんぶ、しまさこにやんの3将のゆるキャラに来てもらいました。「ゆるキャラと踊ろう」の時間を設け、ゆるキャラと会場みんなで「マル・マル・モリ・モリ」を楽しく踊りました。

他にもバルーンアートのボランティア団体「すつからかーん」の風船ショー、滋賀県立大学吹奏楽部による演奏、滋賀県立大学ストリートダンスサークル、crew によるダンスがあり、一般の方々、他の障がいをもつ方々、その家族など多くの参加者の相互交流の場を提供し、地域と繋がりをもち、障がい者を支える地域づくりにつながったのではないかと思います。

## \*地域の声

いつも一緒に様々な活動をさせていただいている NPO 法人「障害者の就労と余暇を考える会メロディー」の養護学校の教員をさせていただきました。

障がいがあることで生活世界が狭まったり、交友関係が限られたりすることが大きな問題となつていますが、ハーモニーの一人ひとりの学生とのつながりが、障がいのある本人ならびにその家族にとってこれらの問題解決に向けて展望を与えていることも事実で、有り難いことです。

ハーモニーの支援によって、家族だけではできない活動ができることをはじめとして、家庭と学校や仕事などの日中活動の場に加えて余暇活動の場の広がり得られるようになったことが、障がいのある一人ひとりとつても生活世界を広げる契機となっています。

福祉や教育系の学科のない県立大学において、自らの意思でボランティア



ティアとして障がい者問題に向き合おうとしているハーモニーのますますの充実と発展を期待し願っています。

## \*1年間の活動を通じた

### 成果と課題

活動の成果としては宿泊体験を嫌がっていた子が宿泊体験をしたいというようになった、前年度は餃子を食べられなかった子が今年度はたくさん食べることができたなど、目に見えた子どもたちの変化や成長が見られたことが大きな成果だと考えます。

数年前までは年に何度かメロディーの方を講師に招いて障がいについての勉強会を開いていました。今年は最近開くことができています。今年度も開こうという話は出ていました。今年度の行事のことについてはいろいろと結局行うことができませんでした。そのため、勉強会を経験していない現在の1、2回生は障がいに関する知識はおろか Harmony の活動の目的なども知らない人が多いように感じます。これから Harmony を支えていかなければならないメンバーがこのままの状態では Harmony の役割を果たすことができません。そこで、今年度の課題として、前年度の課題となっていたメンバー内での情報共有はメンバー同士が直接会って連絡する機会が少なく、うまく伝わっているのかわかりませんでした。そこで、活動に必要な

基本的な知識を身につけ、メンバー内での情報共有を強化するため月に1回程度昼休みを利用した簡単な勉強会や会議を開こうと考えています。そうすることで今後の予定などを確実にメンバーに伝え、障がいや活動に対する理解を深め、今後の活動につなげていきたいと考えています。また、これによって参加者の少ない定例活動への自発的な参加を促したいと思っています。

さらに、今年度は学生が新たに考えて始めた取り組みが少なかつたように感じるので、今後は学生が自ら考えて行動し、様々なことに挑戦していききたいと思っています。



# 地域博物館だより

## 「亭」、ついに完成 長浜曳山博物館に展示

地域博物館プロジェクトが、特別展示「湖北のソウルミュージックシャギリ」にあわせて、「亭(ちん)」の内部復元模型の製作をおこなった。本誌記者がその顛末を追った。

今年、発足したばかりのあのチームが早速大きな仕事をやってのけた。長浜市曳山博物館の全面協力のもと、曳山まつりに使用される曳山(山車のこと)の「亭」とよばれる部分の完全再現に成功した。

「亭」とは曳山まつり本番に、子ども達がシャギリ(囃子)を演奏する場所である。曳山の最上部に位置し中は非常に狭く、暗い。その「亭」を実寸大で再現すべく地域博物館プロジェクトは生活デザイン学科の佐々木一泰先生の協力のもと立ち上がった。

汗を滴らせながらの実測、試行錯誤しながら作成した設計図、夏休み返上の作業。その困難も乗り越えて先日ついに完成した。「亭」の模型は持ち運んでどこにでも展示できるように、分解して運ぶことができる。

代表の佐野正晴氏は「楽座が始まって初めての大きな仕事でした。暑い中の作業だったのでメンバーは本当に大変だったと思います。無事に完成して本当に良かった」と話した。

「亭」はその日のうちに長浜市曳山博物館に運ばれて組み立てられた。特別展示中はもちろん、期間終了後も展示され、多くの人を観覧した。さらに湖風祭での展示の際には、祭を知らない人も展示に見入っていた。



▲ 湖風祭でも展示された亭内部復元模型

### 地域博物館プロジェクトとは？

このプロジェクトは、地域にある民具や古文書、お祭などの「地域文化財」を活用して、「地域博物館」をつくらうとするものだ。その過程で、地域の魅力の再発見をねらっている。

主な活動地は、高島市マキノ町の白谷荘民俗資料館、長浜市曳山博物館、彦根市高宮町不破氏邸宅、守山市下之郷町の四カ所である。いずれも、地域博物館づくり、博物館展示のお手伝いをしている。

ちなみに、チーム名は「Student Curators(学生学芸員)」が本来である。英語が苦手な代表の陰謀でカタカナ表記になったとの噂もある。

### 地博自慢

地域博物館プロジェクト、略して「地博」。チームに入れば、こんなイイコトあったり、なかったり...。編集者の独断で「地博自慢」しまくりです！

- 一、地域の人とのコミュニケーション能力がつく！
- 一、運動不足が解消できる！
- 一、貴重な資料に直にふれることができる！
- 一、何かとおたのしみが多い！ などなど...



▲ 貴重な資料を間近にできる



▲ 皆で食べるおいしいごはん

### ♪ 地域の声 ♪

曳山博物館職員で山組の若衆でもある大塚映明氏は、博物館と大との連携の必要性を説く。

その上で、「学生の皆さんは私たち博物館の人間より発信力があるので、この点を生かして、(中略)曳山まつりの多彩な魅力を伝えていただければ」と述べる。

その言葉の通り、湖風祭での亭模型展示の際には、「祭を知らなかったけど、来年は行ってみよう！」という声が多く聞かれた。

白谷や高宮、下之郷にしても、「初めて知った」「ぜひ見に行きたい」などの声が聞かれ、「学生の力」を再認識した。

### 成果と課題

私たちが取り組む事業は、いずれも一朝一夕で済むものではない。展示やイベントをおこなう前に入念な調査活動を踏む必要がある。

この一年間の活動で、調査は大きく進んだ。一方で、展示などでアウトプットしていくことがあまりできなかつた。

来年度は、今年度の調査結果を活用し、博物館展示やイベントをおこないたい。

# おとくら新聞

2013  
3月31日



## おとくらNHK取材!

おとくらプロジェクトは今年で4年目を迎えた。これまでも活動の中で何かメディアに取り上げられてきた。その中でも今年はいくつかのメディアに紹介された。3周年コンサートの成功、座・楽庵が固有文化財に選ばれる、ギャラリ活動等々二〇回以上今年度はメディアに掲載された。特に驚いたのが、NHK放送局から取材の依頼があったことだ。

平成二十五年二月二十一日(木)におうみ発610の週刊ガッコウ通信という枠で8分間おとくらについて放送された。おとくらNHK取材!という枠で8分間おとくらについて放送された。代表久保を中心とした長時間にわたる収録はこれまでにならぬおとくらへの期待を肌で感じた。これまでのおとくら活動そして県大の近江楽座が、社会的に認められた瞬間であったのではないだろうか。放送ではおとくらの歴史や活動の背景・目的に始まり、おとくらという名前由来やおとくらの3つの空間「ギャラリー



リー・蔵・喫茶」が紹介された。またおとくらの持つ可能性を三十秒間の深いイイ話として放送された。その他にも、近江楽座チーム同士の語り合いや、ギャラリー搬入の風景、メンバーのおとくらへの期待等々、おとくらの魅力に溢れた8分間であった。

## いろいろ1年

高宮町の新しい風を吹かせることを目的としているおとくらでは、今年度もイベント活動・ギャラリ活動、積極的に進めてきた。イベント活動の中のコンサート活動では昨年度からお世話になっておられる白谷仁子氏を始め、岡田健太郎氏、滋賀県立大学アコースティックサウンドクラブなどに蔵にて演奏していただいた。

今年度の新しいつながりとして、3周年コンサートでは彦根市元岡町お住まいのヨシノ氏に「超あつとほーむらいぶ」として演奏していただいた。おとくらの新しい形「自分を表現する場」として、地域の方々に利用していただくということが見えてきた。

## おとくらの誕生!



おとくらプロジェクトが活動する拠点は高宮町にある。旧中山道の宿場町として発達した歴史あるまちで、江戸時代から多賀神社の門前町、そして高宮上布の集散地として栄えてきた。高宮神社の前に店舗兼住宅を持つ加藤義朗さんが高宮町の地域活性化のために自宅の空きスペースを活用したい、と県立大学非常勤講師である中西茂行先生に相談したことが本プロジェクト発足のきっかけであった。学生の中でコンペをした結果、3つの空きスペースを、イベント・喫茶・ギャラリのあるコミュニティ

二テイススペースとして活用する案に決まり、コンペ案にもとづいて、中西先生の指導を受けながら「おとくら改修案」を半年近い時間をかけて作りあげた。改修場所の整理、解体から土間コンクリート打ち、木工事、土壁塗り、仕上げ工事などを、大工さんや多賀木匠塾の応援を得ながら学生の力で改修を進めた。平成二十二年夏に改修が終了し、九月十四日、関係者を招いて「おとくら」竣工式が開催された。「おとくら」とは「音楽」と「蔵」との造語である。伝統的な蔵の空間がもつ和やかな雰囲気大切にしながら、学生と地域の人々、ギャラリ展示をする作家、中山道を歩く人々などが出会い、交流する場所づくりを目指すことになった。平成二十二年六月から近江楽座プロジェクトに採択され、設備を整えて、喫茶・ギャラリ運営を軸としつつ、コンサートや地域活動へ参加してきた。

喫茶内では多くの出会いが生まれています。そんな中でお客さんとの会話の一部を紹介する。客「私は歩くことが好きです。歩くことの醍醐味は道中を楽しむこと。観光誌にあるようなスポットを転々と見て回るよりは街道・橋・川・お宮さんなどその地の歴史を想

像しながら歩くことが楽しい。この高宮町は観光名所ではないよね。ここら歩いていて人はこういったところに魅力を感じて歩いていてと思うよ。私は、自分の中に何かしら思いがあつて高宮に来ている。いくらでも話したいことがあるよ。

今は欧米文化からの影響が強いよね。でも、各地で日本の文化を受け継いでいる人たちがいる。君たちもその一員だろう。おとくらって

う場所は素敵なおとくら。こういうところには好んで人が来る。だから、大勢の人は来ないけど、来てくれた人とたくさんお話して、のんびり過ごす感じがいいよね。」と、おとくらと高宮について熱く語り合っていた。おとくらが交流の場であり、出会いの場となることを目指しているおとくらプロジェクトにとって喜ばしいコメントだった。これを聞いたメンバー一同は多くはない大事な来客と

との交流の楽しさ、大切さ、また、おとくらを今後も継続し続け、こういうお客さんのおかげにも文化を守り続けていこうと

おとくらプロジェクトはイベント・ギャラリ・メニュー・広報の4つにおおまかに担当を持ち、活動をしている。広報班では、チラシ作成の際にも、高宮サマーフェスティバルの際におとくらのことをもつと高宮の方々を知っていただくことを目的にうちわの作成にも取り組み大変評判がよかった。夏の暑い時期にうちわは大変需要があり、サマーフェスティバルの際には多くの方々のうちわを配布することができた。その他にも、喫茶活動や外の人が集まる催しへの参加の際、自分たちがおとくらプロジェクトのメンバーであると

一目でわかるようにユニフォームのデザイン作成にも取り組んだ。



喫茶内

おとくら

おとくら

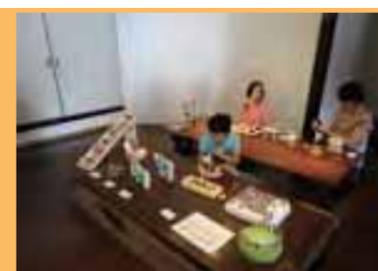
おとくら

おとくら

おとくら



ギャラリー「こどものおもちゃ」展



ギャラリー「こどものおもちゃ」展



うちわと紙飛行機 (サマーフェスティバルにて)

## ◆笑顔の見える、囲めるキッチン!◆

11月始めから末にかけて、かみおかベSBのキッチン改修が行われました。

学生の手によって土間に貼られた床板をはがすことから作業は始まりました。床板の下からは土の地面が現れました。

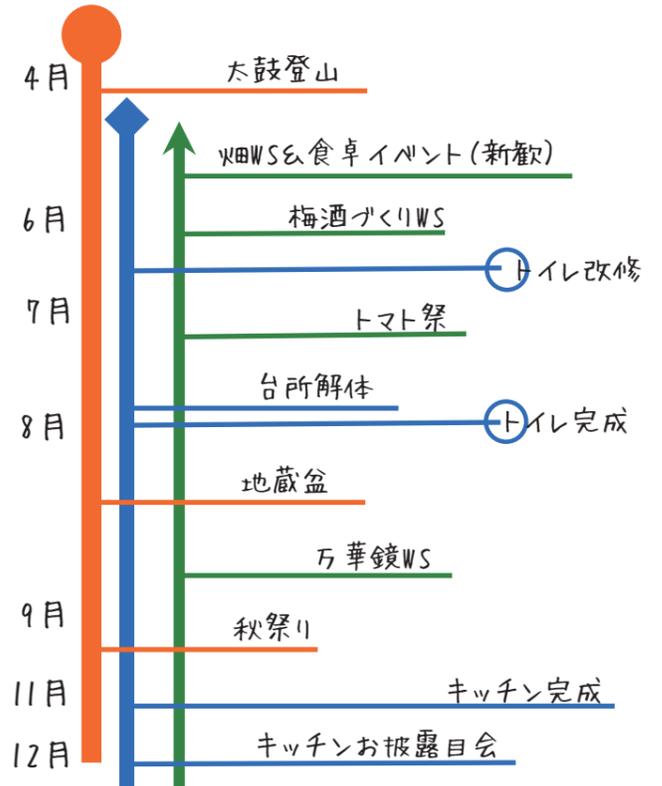


「みんなで顔を合わせながら調理をしたい」という思いがありアイランドキッチンという、流しを部屋の真ん中に配置してみんなとのコミュニケーションが取りやすいキッチンにしました。



キッチンの完成後には、「キッチンおひろめ会」を開催。キッチン制作に関わった方を招待し、みんなで料理を持ち寄って完成したキッチンで実際調理をしました。

料理や後片付けのときにはアイランドキッチンのおかげでみんなで楽しくおしゃべりしながら活動することができました。今後も食卓イベントで活躍すること間違いなしです!



上岡部町にある築135年の古民家にて活動しています!

古民家を改修して、そこを拠点とし、食卓イベント、様々なワークショップ等を開催、また地域行事への参加などを通じて、地域の方々との交流や、留学生をも含めた学生同士の交流が深まる場所づくりを行っています。

# かみおかベ古民家活用計画



## SLEEPING BEAUTY

### ◆おいしい☆かみおかベ◆

実はかみおかベSBには、活動の時にあることが必ずと言っていいほどついてきます。それは…美味しい物が食べられる!ということですよ。

なぜでしょう?食卓イベントであるトマト祭りのピザはもちろんのこと、キッチン改修の時も近所の方から柿の差し入れをいただいたり、と何かと食べ物に縁がありま

キッチンおひろめ会では参加者からの持ち寄り制(手作りに限る)にし、料理好きさんが集まる場所としても有名ですよ。

みんなで集まって一つの机を囲み、楽しく活動しながらごはんが食べられる場所、そんな居心地のよさがかみおかベSBにはあります。きっと、みんなその体験を通してまたかみおかベに来てくださるんでしょうね。

お料理するのが好き、食べるのが好き、という方は是非一度かみおかベSBへお越しください。新しい出会い、おいしい手料理があなたを待っていますよ。



### ◆成果と反省◆

わたしたちは古民家を開かれた交流空間として活用することを目指しています。具体的にはシェアハウスとしての活用、地域の方々が気軽に立ち寄れる「井戸端」的な場の提供、様々なイベントの会場の提供などを考えています。

交流空間創出の第一歩としての「食卓イベント」開催のほか、地域行事へ積極的に参加するなど近隣の皆さんとの関係作りを行っており成果も上がっています。

しかし一方では、活動の拠点となる古民家の改修作業が遅れており、イベントばかりが先走りしてしまったため、大いに反省しています。

今後の活動ではまず、より計画的に改修作業を進め、活動の拠点づくりをしっかりと行いたいと考えています。

# 信・楽・人新聞

2013年(平成25年)  
3月31日  
曜日

## サイン試作品完成。春・発表！

—窯元散策路の新たな顔に—



去年度、サイン計画のため窯元散策路で道・サインに関するアンケート調査を行いました。調査の結果、「観光客は自然な集落の空気感がある景観を壊さないでほしい、しかし道に迷ってしまう」との声が聞く事ができました。その結果をもとに、道しるべになるサインを考え、試作品を「おかみさん会」と信楽人の合同で製作しました。

私達がサインを計画することで、地元の外に住んでいる学生がサイン計画をすることに、客観的に計画ができるということ、信楽によりあったわがかりやすいサインのデザインを提案することが目的です。また、私達は道のコーディネートが学べ、窯元散策路の全体を考えることができました。

地域の「おかみさん会」と月に一度ほど、ミーティングを行い、そこで話し合ったこととまちあるき・アンケート結果から、サインを考案します。できたサインを「散策路のwa」にプレゼンしました。そこで意見のすれ違いが起こっていたことが明らかに、もう一度考案することになりました。

た。窯元ヒアリングの結果をみて、もう一度一人一案ずつ持ち寄りそこで意見のまとまったサイン看板の試作品を「おかみさん会」と信楽人の合同で製作しました。

最終案は、おかみさん会と簡単な作り方で、陶器のためぎを制作し、おかみさんに観光客へのメッセージを入れてもらうという案です。

来年はこのサイン作りのワークショップを行いたいと思っています。

今年度の反省として、サイン計画が来年に持ち越しになつてしまったことが挙げられる。しかし、サイン制作を行う上で、おかみさん会とコミユニケーションがだんだん取れるようになり、お互いに相手と関わることで、窯元散策路に関する意識を向上させることができるようになりました。実際に信楽人がおかみさん会同士の集まる機会を増やすこともできました。来年度は、試作品で作ったサイン看板をおかみさん会とワークショップ形式で制作することにより、サインを制作することだけでなく、より交流し、窯元散策路の今後について話し合うことを目的とします。

「本年度の信楽人さんの活動は、主におかみさんとの交流を深められた事がさまざまに良い結果を生み出した要因だと思えます。特に昨年からの取り組み、何度かありがとうございます。窯元散策路

「地元の人たちよりも信楽の良き理解者となつていただけたかな」

のサイン計画では、ようやく見本作りまでこぎ着けることができ、大きな一歩を踏み出したように感じています。

当初はお互いに遠慮があり意思の伝達がうまく伝わらなくて少し時間がかかってしまいましたが、そういう経過も経て今では地元の人たちよりも信楽を愛してく

「窯元散策路サイン計画」を通して見えてきた課題

今年度の軸である、サイン計画のプレゼンの中で、信楽人、おかみさん会と窯元散策路のWAとの意見のすれ違いの発覚より、十三年九月十三日(木)信楽人が各窯元にヒアリングを行いました。このヒアリングは、窯元散策路のWAの窯元がそれぞれどのような意見を持っているのかサイン

についてどう思っているのかを私達が把握することを目的としました。また、今散策路に余っているものなどでサインが作れるかもしれないという可能性があるかも調査しました。調査の結果、窯元散策路のWAに所属する窯元の中にたいする意識の差が感じられました。職人も窯元散策路の一番の問題は意識の差であると感じているようでありました。また、サインについては入っているのかわからない、人がいるのかわからないことが問題であるとも感じているようでした。

「本年度の信楽人さんの活動は、主におかみさんとの交流を深められた事がさまざまに良い結果を生み出した要因だと思えます。特に昨年からの取り組み、何度かありがとうございます。窯元散策路

「地元の人たちよりも信楽の良き理解者となつていただけたかな」

のサイン計画では、ようやく見本作りまでこぎ着けることができ、大きな一歩を踏み出したように感じています。

当初はお互いに遠慮があり意思の伝達がうまく伝わらなくて少し時間がかかってしまいましたが、そういう経過も経て今では地元の人たちよりも信楽を愛してく



信楽人とは？  
信楽人とは、滋賀県立大学の有志の学生が集まったグループです。信楽町をフィールドとして、今年で結成五年目です。メンバーは環境科学部の建築を学ぶ学生と人間文化学部でデザインを学ぶ学生が主です。活動内容は五年間で徐々に広

がっついていき、初期は建物の改装作業が主でしたが、shiroroieが、接客、印刷物の作成、Ogammaでは、歴史の調査、パネル作成など今では多岐にわたっています。去年度の終わりからは窯元散策路全体のサイン計画を始めました。

演習など図面や模型などの課題でものを作っています。が、学校ではできない、実物を作るということ、また過程での地域の職人とのコミュニケーション、まちをコーディネートする過程などの貴重な体験を通して学生は飛躍的に成長を遂げ、一年が過ぎると見違えるほどです。



「窯元散策路サイン計画」を通して見えてきた課題

今年度の軸である、サイン計画のプレゼンの中で、信楽人、おかみさん会と窯元散策路のWAとの意見のすれ違いの発覚より、十三年九月十三日(木)信楽人が各窯元にヒアリングを行いました。このヒアリングは、窯元散策路のWAの窯元がそれぞれどのような意見を持っているのかサイン

「窯元散策路サイン計画」を通して見えてきた課題

今年度の軸である、サイン計画のプレゼンの中で、信楽人、おかみさん会と窯元散策路のWAとの意見のすれ違いの発覚より、十三年九月十三日(木)信楽人が各窯元にヒアリングを行いました。このヒアリングは、窯元散策路のWAの窯元がそれぞれどのような意見を持っているのかサイン

たいか決める時期がきています。窯元散策路が自分たちの意志で行動し、まちを作っていくためにも意識の共有が重要だと感じました。

たいか決める時期がきています。窯元散策路が自分たちの意志で行動し、まちを作っていくためにも意識の共有が重要だと感じました。

# ほたてあかりプロジェクト

2012年 活動報告新聞

ビッグニュース  
一年間で  
**1000**  
個売りしました！



イベント出店販売で、お客さんにほたてあかりの説明中



2012.7.9 本願寺神戸別院での販売にて

「田の浦ほたてあかり」の売り上げ数は  
二〇一二年四月から二〇一三年三月まで  
一〇〇九個でした。ネット販売、学生が  
お客さんに直接販売するイベント出店販売  
店頭やイベントでの委託販売などでおよそ  
一〇〇〇個売り上げることが出来ました。  
イベント出店販売とは、私たち学生が滋  
賀を中心とした足を運びやすい関西圏のイ  
ベントへ行き、イベント主催者・団体にこ  
協力いただき、ほたてあかりのブースを設  
け、商品販売をすることです。そのブー  
スには田の浦の紹介や写真のパネルを展示  
し、販売の際パネルを使いながらお客さん  
に田の浦の震災時の話や現状、そしてほた  
てあかりの活動をお伝えしています。世間  
では震災への関心が薄れてきており、私た

ちが田の浦やほたてあかりのお話をするこ  
で震災への関心を再び持つてもらい、また被  
災地に支援が必要であること、そして震災  
は他人事ではないということ伝えるため  
です。  
イベント出店販売ではたくさんの方々にお  
会いすることができました。東北に想いを  
寄せる地域の方や、東北復興支援団体の方  
学生、企業の方など、様々な方々とお会い  
しました。その方々に、田の浦やほたてあ  
かりの活動のことをお話しすると、私たち  
の思いを受け止めてくださり、その人が関  
わっている地域や団体、人を紹介してくだ  
さいました。そのつながりが、次のイベン  
ト出店販売や、委託販売の依頼や個人購入  
につながっていききました。ほたてあかりはこ  
うしたたくさんの方々のご協力とつな  
がりによって一〇〇〇個の売り上げを  
達成し、これまで活動を継続すること  
ができています。

## ほたてあかりPとは？

震災後、滋賀県立大学の学生が縁あって  
宮城県南三陸町歌津田の浦地域に入るよう  
になり、そこで女性たちとお話したことがき  
っかけだった。津波で家も仕事も失った後、  
男性はがれき撤去などの仕事があったが女性  
は何もすることがなかった。女性たちは『仕  
事が趣味』の用に働いてきたから、時間の使い方がわからないの」と語っ  
た。そこで学生にできることはないかと考え、田の浦のほたての貝殻と滋賀  
のお寺で出た和ろうそくの残燭を組み合わせてエコキャンドルを開発した。  
女性たちの仕事に戻るまで、そして女性たちの集まる時間と場所づくり、少  
しでも収入を得られるものとして「田の浦ほたてあかり」が誕生した。ほたて  
あかりプロジェクトは田の浦の女性たちがつくったほたてあかりを販売し、女性  
たちの収入支援をするプロジェクトです。



ほたてあかり誕生



## 2012年9月末生産中止

ほたてあかりは去年の9月末に生産を中止しました。生業である漁業がだ  
んだんと復興し、田の浦の女性たちも徐々に漁業の仕事が増え始め、忙  
しくなり、ほたてあかりの製造が難しくなりました。このため、お母さんたち  
と話しあった結果、ほたてあかりを9月末で生産終了することになりました。  
商品の在庫はまだ残っているので後期も商品の販売はまだつづけていきま  
す。これからも、ほたてあかりは田の浦のお母さんたちを応援していきます。

## ちよつと聞いてよー！プロジェクト自慢

### 3.11 田の浦キャンドルナイト実施



二〇一三年三月一日、あの震災から二  
年が経ちました。去年に引き続き、ほたて  
あかりは田の浦でキャンドルナイトを実施し  
ました。一日から暴風警報が発令され  
実施が危ぶまれましたが、奇跡的にキャン  
ドル点灯の際には風もやみ、無事きれいにキャ  
ンドルを灯すことができました。キャンドル  
の数は全部でおよそ七〇〇個で、滋賀からの  
メッセージ付き屋外用ホルダーや田の浦の竹  
を使用した竹あかりを使用しました。  
キャンドルナイト会場では、近江牛の筋煮  
込み入りの「彦根うどん」の炊き出しも行い  
ました。また、三月一日の朝にMEMOに取り上げていただきました。

一日夜にニュースゼロ、翌日の朝にMEMOに取り上げていただきました。  
田の浦の方々にとって忘れられない日に、田の浦の方々が集まって話を  
し、思い思いに過ごす場所が創造でき、また滋賀の方々の思いを田の浦  
へと届けることができました。たくさんの方々のご協力  
とご支援によって、今回の3.11田の浦キャンドルナイトをつくること  
ができました。

協力団体・能登川地区まちづくり協議会さん、花しょうぶ商店街さん  
彦根キャンドルナイト実行委員会さん、NPO法人芹川さん、高宮の心  
を東北へチームさん、夢あかり京橋さん、ITPふくろうの会さん、  
千成亭さん(順不同)

## ●一年の成果と課題●

震災で仕事も失ってしまい、何もすることがない  
時間がたくさんあった時期に、少しでも収入があ  
ったことは助かった。田の浦ファンクラブ 佐藤久次会長  
-----  
学生の皆さんといろいろな交流と出会いがあったこ  
とがよかったです。それと私自身田の浦に住んでい  
ながら部落の人達とあまり交流がなく、ほたてあか  
りを作ることによって前より話せる人、仲良くなっ  
た人達が増えたこともよかったです。最後にほたて  
あかりをつくるのに必要な材料をたくさん地域の  
みなさんが快く提供してくれたり協力してくれてと  
ても嬉しかったです。田の浦ほたてあかり作り手の主婦の方

この一年で滋賀を中心とした地域でほたてあかりの  
販売と被災地の現状を伝える活動を行ってきました。  
まず成果としてあげられるのは商品の売り上げ数で  
す。また、ほたてあかりの販売で田の浦の女性の交  
流する時間と場所、一時的な収入を作り出せたこ  
と、そして震災の記憶が薄れている中で出会うた人  
々に被災地の現状を伝え少しでも震災のことを思っ  
きっかけになったかと思えます。そして、地域全体  
で田の浦を支援しているところもあり、ほたてあかり  
が地域と人をつなぐ役割も果たせたかと思えます。  
反省点として、まず予算の執行が予定通りできな  
かったことがあげられます。予算を申請する上で一  
年間の活動計画の見通しがあまかったこと、そして  
事業が途中で変わった時点で速やかに新たな策を考  
え予算の使い道を考えるべきでした。また、メンバ  
ーの数が少なく、現地との調整、イベント販売、  
委託販売担当など、各事業の担当をつくり仕事を  
分散させることができなかったため、メンバー一人  
一人の負担が大きくなってしまいました。メンバー  
を確保し、部署をつくる体制をつくれれば活動の幅も  
広がったかもしれません。  
生産を去年の9月末に中止しましたが、変わらず  
在庫販売をしながら田の浦の状況を伝えて、今後も  
田の浦と継続的に関わっていききたいです。震災から  
二年の月日が経った今、復興商品を購入する人もど  
んどん少なくなっています。その中で、復興支  
援商品としてのほたてあかりにどれだけの付加価値  
をつけて在庫を完売させるかということが大きな課  
題になつていくと思えます。

## 地域の方の声

# 近江楽座～一姓～

## 一姓の紹介

一姓では野菜作りを媒体にして、地域とのつながりを深めることを目的にして活動をおこなっています。地域の方と交流も交えつつ、地域の子供たちとも一緒に野菜を育てたりして、交流を深めることを目指しています。

## ちょっときいてよ！ プロジェクト自慢

写真にも写っていますが、一姓が使っている畑にはよく猫が来ます。その猫、リリィちゃんっていうんですが可愛いんですよ！すごく人懐っこくて、別にエサを催促するわけでもなく、、！一姓畑のアイドル、リリィちゃんの紹介（自慢）でした！

## チームの ビッグニュース

ビックニュースなんて、なかなか無いですね…。ちなみに一姓の代表は工学部電子がやっております。楽座の代表を電子がしたのは初めてだから、これがビックニュースですかね！！

## 地域の声

地域の方にお話を聞いたのですが、今回一番紹介したいのは子供たちの声です。人それぞれだとは思いますが、いつもイベントに来てくれる子供たちは「遊ばーよ！」と言ってきます。もちろん私たちの企画が面白くないのもあると思いますが、きっと子供たちはイベントというより、大学生のお兄さんお姉さんと遊ぶことが楽しみなんだと感じました。

## 1年間の活動を通じた成果と課題

成果としては、イベントを通して地域の子供たちとの親交が深まったことが実感出来たことです。それというも子供たちは私たちの顔を覚えてくれていたらしく、近所で見かけた時には向こうから声をかけてくれる、そんな場面があったからです。

課題としては、野菜作りの方に重点が置いていないことです。私たちは地域との交流がメインに活動してきました。なので、立派な野菜を販売するというのでは無いのですが、さすがに野菜ができないという事態が起こるのは防ぎたいものです。今後活動を続けていくとしたら、全員が野菜を育てている自覚を持って活動に臨むようにしなければならぬと感じました。

# ばんでいら新聞

発行

チーム  
バンデイラ・  
ジ・オウロ

## バンデイラ・ジ・オウロって いったい何!?

バンデイラ・ジ・オウロとは、在日外国人の子とペレーノポレガールでの一枚もたちの教育を支援するグループです。日本に住んでいる外国人の子どもたちに学習指導をして、学力向上の支援したり、日本の文化と触れ合う機会を増やすことによって、子供たちの日本での自立を助けます。現在はペレーノポレガールでの教育支援、サンタナ学園での企画授業、中央中学校での学習指導などを行っています。



ブラジル人学童兼保育所

バンデイラの今年度の自慢は、活動の幅を大きく広げることができた所です。バンデイラでは、メンバーが増えたことで、昨年よりも活動内容が充実しただけでなく、新たな事業を展開することができました

「進学サポート事業」では、近江八幡で活躍されている団体にボランティア活動を開始することができました。また彦根市教育委員会

十二月からは自分たちの活動を彦根市で新たに開始することができました。また彦根市教育委員会

交流会は、市内の外国人児童の交流を図るといっても、一つの学校から四人の子どもたちが集まってくれました。バンデイラとして初の取り組みでしたが、子どもたちはとて喜んでくれました。

### 「こが自慢!」新たな活動の広がり

### コラム

Y氏がビックニュースについて語る。

何よりメンバーがいっぱい入ったことですね。今まで少人数で活動を行っていたので、大変苦労してきたこともあり、特に今年度は本来活動の中心である2回生が一人しかいない状態だったのです。

しかし、勧誘のいかもあって前期には新メンバー達が5人も入ってくれて、そのあとも細々と勧誘を続けてきた結果、活動に参加してくれる新しいメンバーがさらに4人ほど増えてきています。この調子で今後も頑張っていきたいと思えます。

### 課題

今年は人数が増えて活動の幅が広がった一年でした。しかし、それに伴いメンバー間の情報共有や協働がその分難しくなりました。

仕事の分担をもっと上手く割り振っていかなければならないし、定例会議に参加できなかったメンバーへの連絡など細かいフォローもして行かなければならないと思えます。

バンデイラとして外国籍の子どもたちへの取り組みはある程度充実してきていると思えます。そしてまだまだこれらの事業を充実させることは必要ではあります。外国籍の子どもたちだけに働きかけるのではなく、今後は日本の子どもたちにも異文化理解を始めていけるような活動を始めていきたいと思います。



### 地域の声!!

地域に確かに居住している外国人家族、しかしいろいろなサービスを日本人家族と等しく受けることができるか、というところではない。子育ての講演会に通訳がつくこともないし、自国の人々が演台に立つこともない。そもそもそういうことに参加できる時間的余裕がないのが現状だ。たまには外国人でよかったな!ということがあってもいいのではないか、それがバンデイラ・ジ・オウロの活動だ。外国人の子どもをサポートしている。サポート対象も内容もメンバーも縦に横に広がっていることに今後も期待を寄せている。滋賀県にお住まいの平田輝子さんより

### バンデイラの一年がここにある...

一年間の活動を一挙公開!  
わかりやすい事業別展開!  
見やすい全ページカラー版



バンデイラ・ジ・オウロ

2013年度  
活動紹介冊子

お近くのバンデイラからお取り寄せください!!



2012年度版 活動紹介冊子

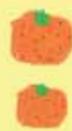
## コラボ団体 急募!

私たちとコラボしてみませんか?

子どもたちのために  
楽しいイベントを  
一緒に作り上げましょう!

bandeiradeouro@yahoo.co.jp

## 「未来看護塾」、略して「みかん」



私たち未来看護塾は滋賀県立大学人間看護学部人間看護学科のメンバーで構成されています。こどもからお年寄りの方、障害をもつ人など地域の様々な方を対象とし、「心も身体も生き活きと健康になってもらう」ということを目的として活動を行っています。また、昨年度からは東日本大震災で被害を受けた宮城県南三陸町の歌津田の浦地区にもいかせていただき活動の幅を広げました。

日々の活動は毎月一回全体でミーティングを行い、月毎のシフトを決めて彦根市立病院の小児科、障害をもつ子が通う通所施設であるぼほハウス、城南保育園ではこどもたちと遊び、彦根市立病院の緩和ケア病棟ではティーサービスを行っています。また皆さんに笑顔になっていただけるように、病院ではクリスマス会、湖風祭ではちびっこ広場を開催するなど定期的にイベントを行ったり、積極的に地域のイベントに参加しています。これらの活動を通して私たち自身も対象に沿った関わり方を学び、コミュニケーション能力を高めることを目指しています。



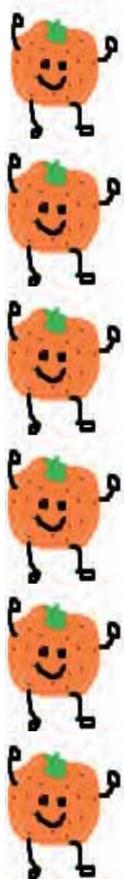
## 皇太子様にごプロジェクト紹介をしました！

昨年七月、皇太子さまが滋賀県立大学を訪問されました。その際、近江楽座から5チームがプロジェクト紹介をさせていただいたのですが、そのなかの1つに未来看護塾が選ばれ、前・代表と現・代表の2名が活動報告をさせていただきますました。

## 宮城県南三陸町での活動

南三陸町歌津田の浦地区での活動は昨年度二月に始まり、今年度は十月、二月、三月の三回にわたり、活動をさせていただきました。主な活動内容としては、イベントの開催です。現地の方に来ていただき楽しんでもらうと同時に、このイベントが現地の方向士のコミュニケーションの場や、学生と現地の方々の交流の場となり、お話を聴くことで日々のストレスを少しでも解消してもらうこと、元気になったり笑顔になってもらうことを目的としています。また、学生自身も直接現地の方と接することで生の声や訴えを聴くことができたりと貴重な経験をさせていただきました。

未来看護塾としては今のところ四回の活動になりますが、継続して訪問させていただいているということで、すばらしい歌津をつくる協議会の方から感謝状をいただきました。今年度も引き続き田の浦地区での活動をさせていただきます、これからもできる限り未来看護塾として現地の方々と関係性を続けていけたら、と考えています。



活動報告の内容としては、日々の病院や学童などの地域の活動と、昨年度からの南三陸町歌津田の浦地区での活動を動画を交えて報告させていただきました、皇太子様から「良い活動をされていますね。」とお褒めの言葉をいただきました。

## 地域の方からの声



昨年六月にビバシティ彦根にて、イベント「生き活き健康活動・未来看護塾交流会」をさせていただいた際、ビバシティ彦根の方から「企業がイベントをしてもこんなに人は集まりませんよ。」とイベントの大盛況を褒めていただきました。また、日々の活動でお世話になっているぼほハウスの方から、「未来看護塾の皆さんが顔をのぞかせてくれると、子供たちの表情が変わる。とくに十代の子どもたちは、自分たちと年齢の近い年齢の人に日常的に接する機会が少ないので、彼ら達ボランティアの表敬は子供たちにとってとても新鮮であり、身近な情報源でもある。子供たちは、学生との間にスタッフとは異なる関係性を築くことで『他人と関わる力』を育んでもらっている。」とのコメントをいただきました。

このように、未来看護塾の活動を応援し、喜んでくださる方々がいることはとてもありがたいことです。私たちは、この活動を通して関わることできるすべての人たちに元気を与え、生き活きとした毎日を送ってもらえるように、これからも地域での活動を続けていきたいと思えます。

## 今までの活動の振り返り

ビバシティのイベントでは未来看護塾の一〜四回生、教員、卒業生に参加していただくことで柔軟に対応することができました。このような未来看護塾ならではの縦の繋がりを大切に、活かしながら今後も幅広い方々を対象に心も体も生き活きと健康になっていただけるような活動を行っていききたいと思えます。同時に学生一人ひとりが看護職者を目指すうえで必要とされるスキルを身につけていくことができたと思います。

また十月、二月の宮城県南三陸町での活動では、昨年からの継続した活動によって徐々に現地の方との関係性を築き始めることができてきたと感じています。さらに、現地へ行って被災地の生の声を聞くことで、私たち自身も看護学生として何ができるかを考えるよいきっかけになりました。活動の幅が広がりつつあるので、メンバー全員の積極的な参加が必要となります。情報共有をしつつ行い、それぞれが意識を持って活動できるよう工夫をしていきたいです。



# ななちよ！ news

2013.3.31

## 手にとって、ななマップ！

ついにななちよ！制作七曲パンフレット「ななマップ」が彦根市内で手に取れるようになりました！

「ななマップ」制作開始は2010年2月にさかのぼります。2012年から本格始動し、制作のために、七曲りの職人さんたちにインタビューを行ったり、七曲りの見どころを探したりして情報を集めました。そして一年かけて七曲りの魅力がいっぱい詰まったパンフレットが完成できました。

「ななマップ」は前年度はイベントなど七曲り内での配布で終了していましたが、今年度に彦根市内に設置することを目指しました。設置第一号は彦根駅下の彦根観光案内所様です。お渡しした時に「今までは観光客の方に七曲りのパンフレットは無いかと聞かれて、渡すことができなかったのが残念でしたが、これからはそれが出来るわ」とおっしゃってください、パンフレットを制作して良かったと感じることができました。

彦根観光案内所などに置いてあります。お目にかかったら、是非お取り下さい！



## 一年の出来事



7月 写真イベントで  
まちあるき



10月 イベントに向けて  
会議



12月 アートイベント  
で読み聞かせ

## ななちよ！

彦根城と中山道をつなぐ道のひとつ、「七曲り」。ここは、仏壇造りで有名な通りです。私たちはそんな七曲りで、イベントや紙芝居の読み聞かせを行い、七曲りの魅力を伝えることを目的としています。

「楽しく・おもしろく」をモットーに、日々活動しています。

## 貴重な座禅体験！

昨年2月、私たちが活動している七曲りで、七曲りアートイベントが開催されました。その際には私たちも紙芝居の読み聞かせをさせていただきましたのですが、そのイベントの企画の中に、座禅体験なるものが！七曲りにある濟福寺さんの本堂で、大仏に見守られながら座禅を体験してみようというものです。これは滅多に体験できないことだ！ということ、私たちも体験させていただきました。体験ということ、私たちが座禅をしたのはほんの短い時間だったのですが、座禅自体なかなかやる機会がないので、とても貴重な経験ができたなと思っています。

また、イベントでは金箔入りのうどんなども販売されていて、寒い中おしくいただきました。

## 成果

### 課題

今年度の成果は、活動を七曲り地域内だけでなく、彦根市内にも広めることができたことである。また今年度も七曲りイベント運営に関わることができた。企画会議に参加し、NPOさん、地域の方、他団体さんと多くの方と交流することができた。

反省すべきところは、計画の甘さである。特に、新紙芝居制作の計画が進まなかった。これは、パンフレットの修正作業が必要になったこと、先輩方が抜けて予想していた以上に人手が足りなかったことが原因である。これらの問題に現時点では対策を講じられなかったので今後模索して行きたい。

## 地域の声

今年もななちよの皆さんには、七曲りのイベントと一緒にありがとうございました。紙芝居や七曲りマップ、イベントの協力など、一つ一つに感謝しきれないですが、一番嬉しいことは、七曲りのことならどんなことにも関わってくれていることです。

地域に暮らすものにとって、その地域は日常のこと。イベントだけを盛大にやっても一夜明ければいつもの毎日。

そんな地域に適度な関心と距離感を保ちつつ、地道な活動を継続していただいていることに一番の感謝です。

キーワードは「振り向けば、そこにななちよ！」

それがいいんじゃないかなあ。

(NPO法人 Links しばたマサミ)

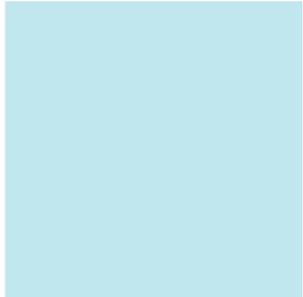
# とよさと快蔵プロジェクト



## 100人の思い出に満ちた空き家

今年度のメインプロジェクトである「空き家を満たせ！100人の思い出づくりプロジェクト」は、現在空き家となっている「前田邸」を舞台に改修作業やイベントを通じてこの物件に関わった人達の軌跡を「思い出玉」という形ある物として残していこうという試み。空き家だつてまだまだ捨てたもんじゃない！そんな思い出を町の人たちをはじめ多くの人に発信することが目的。主に夏の改修作業、古民家レトロ市、秋の改修作業、ヨツマル

シエの4つの活動で思い出玉を集めた。ブロック塀の解体や瓦の葺き替えなど古民家ならではの改修作業には多くの学生が参加し、アーティストや他楽座団体を招いて開催したイベントでは一般の方にも思い出玉づくりに協力してもらうことができた。このプロジェクトの締めくくりである「完遂報告展」の時点で舞台となる空き家を訪れた人の人数は、なんと103人にもなった。展示された100を超える思い出玉は、この一年間の場所が空き家とは思えないほどの賑わいを見せていたことを訪れた人々に我々に代わって語ってくれた。この賑わいを今年度で終わらせないために今回舞台となった空き家は、100人の人とのつながりをもったイベントスペース『満ち家』として新たな思い出を作つてゆく。



プロジェクト自慢！

テレビも雑誌も

### 快蔵一色

『住人十色』への出演や『こんきくらぶ』への掲載は、とよさと快蔵プロジェクトの活動を広めるきっかけとなり、また「古民家レトロ市」や「あなたのスキナコト×空き家ワークショップ」では新聞の力によりたくさんの方が集まった。メディア掲載に関しては、地域の方に声をかけていただき、新聞社に連絡してもらったことも多い。地域に浸透して地域の自慢のプロジェクトになりつつあるともいえる。今後はこうした地域の期待に応えられるように活動をしていきたい。

### 地域の人の声

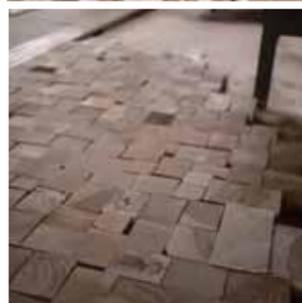
とよさと快蔵プロジェクトの豊郷での活動大変ありがたく思います。共に活動して来て十年目に入ろうとしています。ここ数年はまちづくり委員会のメンバーが年を重ねてきた事もあり、他との関わりも忙しく、なかなか作業を共にすると言うことも難しく心苦しく感じています。しかし、コミニケーションをとる中で、楽しくまちづくりを進めて行きたいことや、共通の話題で話して夢になると年齢差も

感じないくらいです。年ごとに学生さんも徐々に変わってはいきますが、前向きで熱い思いを持って関わってくれているからこそだと思えます。先日、卒業した快蔵の先輩に学生と飲んだ話をすると、「そう言う関係が続いていて安心します。」と喜んでくれました。補助金の関係も有り、新しい物件の改修もままならない事も申し訳ないところです。これからも、楽しく活発に活動して行きたいと思えますので、よろしくお願ひします。

とよさとまちづくり委員会代表 北川さん

### とよさと快蔵プロジェクトって…一体なに??

犬上郡豊郷町、私たちはこの地域で古民家を改修し、活用する活動を7年間続けてきた。まずは空き家をモノとしてよみがえらせること。そしてそれが将来、地域に定着して使い続けられる場となることを目指して、活動をしている。



### 改修作業も一段落 『満ち家』完成！

前田邸改修は2006年から継続して行われてきた。今年度も、前田邸の改修作業にあたる部分が多くを占めてきたが、ようやくイベントスペースとしての体裁が整ってきた。今年度の改修で特に重視されたのは、地域に前田邸の表情を見せること、そして、イベント開催時に参加してくれた人に対してその柔軟性を示すことであった。

塀を取り壊し、弁柄を塗り直し、瓦を葺き直す。暗く閉じたイメージの強

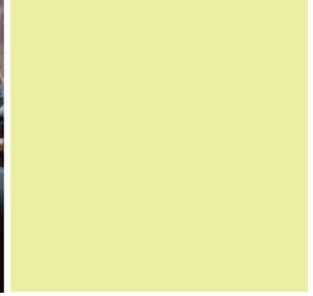
かった前田邸は、一年で地域に見せる表情を大きく変化させ、地域の人からも変わったね」と声をかけていた。

内部では、フリーなワークショップスペースとして土間を作成し、机として椅子として、棚としても使える多機能の家具を製作して、イベントのできる空間を創出した。

### 楽しめた1年・その気持ちを来年度に

地域貢献活動という難しいテーマはあまり取りが重くなり、大きな達成感を得られずにいた私たち。そんな中スタートした今年度、大きな目標として「楽しむこと」を心がけ、メンバー全体が将来に向けてモチベーションを高めるような団体を目指した。これまで以上に計画力や企画力が求められる1年となった今年度、前期はやはり力不足な点もあり計画が滞ったりメンバー間のコミュニケーションが薄れた

てきた3回生で対策をとり、後期は上回生と下級生とが協力してイベントや改修を行うことができた。こうした努力の甲斐あってか、下級生たちには積極的に参加する意識を持ってもらうことができた。力ある上回生と、モチベーションの高い下級生がそろい、やっとメンバー全体が活動を楽しむ気持ちを保持して来年度に臨む体制ができたように思う。困難なテーマはまだある、だからこそ学生らしさを活かして来年度も楽しんで活動が続けたい。





# たけとも-竹の会所・友の会-

2013.03.31

「たけとも」とは、「竹の会所・友の会」の略である。

2011年11月に、滋賀県立大学が中心となって、多くの方々の支えの中で完成させた「竹の会所」。その今後を支えていくべく立ち上った「友」の会です。

第2号となった本紙では、5月5日に開催した「たけとも春祭り」を取り上げます。



## “祭り”で生まれた“笑顔”

### ○はじめに「春の訪れ」

4月30日、大量の荷物と人を詰め込んだ四台の車が、1000km・12時間の道のりを経て、気仙沼市「竹の会所」に到着した。一目見て、半年前となる前回のワークショップ(以下WS)から変わった事は、竹が黄色くなっていた事、そして、色とりどりの花が春を告げていた事だ。去年は、塩害の影響で花はおろか芽を出す気配さえなく、作業中に何度も踏んづけていた地面なのに、こんなにも立派な花が咲くとは！WSの成功に向けて、何よりも大きな後押しとなったのは言うまでもない。



「竹の会所」とスイセンの花

### ○たけとも春祭り

3・4・5の三日間の開催予定をしていた「たけとも春祭り」。しかし生憎の雨。中止せざるを得ない日々が続く、メンバー内にも暗雲が立ち込めていた。今回で三度目となるWSだが、常に嵐のような天気付きまどっている気がする…。嵐と共にやってきて、立ち向かうのが「たけとも」の恒例となってきている？

悪天候や「鯉のぼり」の作業変更等、てんやわんやではあったが、迎えた最終日によやく待ち望んだ晴れ間が。昨日までが嘘のような快晴の中、多くの方々が「竹の会所」に足を運んでくださった。絵を描いたり、たこ焼き・たい焼

きを頬張ったりと、元気よく走り回ることもちが、竹の会所を賑やかなお祭り会場に変えてくれた。

「竹の会所」は、地域の方が集まれる「場」に過ぎない。しかし人が集まることで、笑顔が溢れかえる「場」になれるのだ。



竹のベンチに座ってたい焼きを食べる子どもたち

### ○写真展「笑顔の集まる場所」

5日、「竹の会所」で行われた小さな写真展、「写真家堀田貞雄展～笑顔の集まる場所～」。竹の会所が地元の人にとって、もっと気軽に立ち寄れる場になればと企画された。堀田貞雄さんは、当初からプロジェクトに参加し、写真を撮り続けて下さったプロカメラマンである。そんな堀田さんの協力の下、「笑顔」をテーマとしたおよそ100枚の写真が展示した。また、会場では堀田さんによる「ポートレート写真」の撮影も行われ、親子・友達・仕事仲間と、様々な人達の「笑顔」で会所は埋め尽くされた。今後も「竹の会所」が、写真展のタイトル通り「笑顔の集まる場所」であることを願っている。

### ○東京藝大が飛び入り参加！WS「旗のりレー」

この「旗のりレー」は「子供達にアートを通して笑顔になってほしい。形の復興ではなく、心の復興を。」高橋工業の高橋社長から頂いたこんなお話を元に東京藝術大学、油

画坂口研究室と建築科ヨコヅミ研究室が合同で行ったワークショップである。内容はシンプル。普段当然のように使っている携帯電話やインターネットといった通信機器ではなく、子供達自らの手でオリジナルの信号旗を描き、街の人達に情報を発信していくというものである。鯉のぼりや花、船といった色鮮やかな旗が生まれる結果となった。子供達はワークショップの「考える、描く、伝える、解説する」という作業に笑顔で参加してくれていた。



親子そろって旗に色付けをしている

### ○工事の報告

「たけとも春季WS」の工事内容は、「テラス」の施工と、鯉のぼりWSの「すべり台」制作の2つであった。「テラス」施工は、事前の計画通りの日程で工事を進めることができた。また、海側のテラスでは、被災以前にあった花壇が会所の床下にまで広がっており、その花壇の上部にあたる竹デッキを開放することで、光が射し、外からも花を眺められるように加工した。

「すべり台」は、4日の日程の内2日間暴風雨の影響を受けたこと、現地の竹の曲げ耐力が想定より低かったことによるフレームの曲げ破壊などにより、思ったように作業を進めることができなかった。そこで、工事最終日にはあるが、急遽制作を取り止め、その時点で出来上がっ

ていたフレーム部材を用いて、たこ焼き、たい焼き用の「屋台」と「ベンチ」を作成することに。急の変更ではあったが、4～5時間で一気に25㎡ほどの屋根を完成させることができた。東京藝大の学生らが作業の強力な助っ人として、県大の学生と団結している瞬間が見られた。



テラスもなんとか期間内に完成させることが出来た

### ○参加学生の声

「たけとも」の活動を通して、津波に負けない、海と共にこれからも生きていくまちのエネルギーを肌で感じてきた。震災から早くも2年が経ち、初期の「たけとも」メンバーがどんどん卒業している。私がすべきことは、このまちのエネルギーを後輩たちに伝え、引き継いでいくことだ。

### ○来年もそしてその先も

たけとも1年目、訪れる方々の「笑顔」が竹の会所に集まり、会所は大きな笑顔の花であふれていたように思う。今年からたけともは2年目になる。1年間通してのテーマ、WSごとのテーマを持って、初年度の経験を生かし活動していきたい。来年度、再来年度も「笑顔があふれる場」であるための後輩たちに引き継ぎながら、イベント、メンテナンスを行い地域の方々の心の復興のお手伝いをさせて頂きたいと思っている。

## INFORMATION



本部：滋賀県立大学 陶器浩一研究室  
代表：鳴海 友貴 (陶器研究室 修士1年)  
naru1216ab@yahoo.ne.jp

### □竹の会所

住所：宮城県気仙沼市本吉町田の沢 110 番地  
※竹の会所をご利用になる際は、「ひかど食堂(右地図参照)」にてお声をかけて下さい



■「竹の会所」地図

※現在「たけとも」では会員を募集しています！

活動に興味のある方は、下記URLをご覧ください！

ブログ : <http://yaplog.jp/taketomo2011/>

facebook : <http://www.facebook.com/#!/Taketomo.takenokaisyo>

### □編集後記

「たけとも」の活動は、facebookやブログなど、様々なネットツールを使って簡単に公開できた。しかし、どうしても「見て終わり」になってしまう。このアッサリ感に対して、「たけとも便り」は紙媒体として手元に残り、蓄積されていくので、いつでも見返すことができる。また、掲示することで、多くの方に、我々の活動を伝えていける。しかし重要なことはそれだけでない。「たけとも便り」を編集する上で、活動を文章におこすために頭で活動を振り返る時間を作れるということがある。今後の活動に向けて、より密度の濃い反省点を得られる。「たけとも便り」は新聞であり、我々にとっては活動の記録でもあった。 [松本]

滋賀県立大学  
〒522-8533  
滋賀県彦根市八坂町 2500  
環境科学部環境デザイン学科  
陶器浩一研究室

### 【文責】

滋賀大：松本 洋太 (編集長)  
小池 真央 米田 海視  
生駒 岳大 鳴海 友貴

### □「たけとも」についてのご質問

松本 洋太 (陶器研究室 修士1年)  
090-6915-6628  
sprainmanyouta@yahoo.co.jp

# ラリレトロ

## プロジェクト紹介 ラリレトロ

これからの  
ラリレトロ

能登川では駅を境に、賑わう町と静かな商店街に分かれています。私たちはその能登川商店街をより魅力的にするべく、商店街に立地する古民家にてラリレトロカフェを運営しています。「昭和レトロ」をテーマに、その時代を経験してきた方には懐かしく、そうでない方には新鮮な雰囲気を感じていただけるような店づくりに励んでいます。またご家族で楽しんで頂けるよう、別スペースで子ども向けの企画を開催しております。

また月によっては、外部の方や近江楽座の他団体さんと協働させて頂いています。昨年度はアロママッサージ、編み物教室、雑貨販売や野菜販売など、どれもお客様から好評でした。

月に二日間、十一時～十七時で営業しています。どうぞ皆さんいらして下さい。



キャラクター  
マスコット  
レトロコちゃん

私たちが活動を始めて二年が経ちました。「いったい学生がここでなにを？」初めて私たちを知った地域の方々はその思っていたのだと思います。それが今ではカフェへ訪れてくださる方が回を増すごとに増えていきます。お店にあふれるお客様を見ると「学生が能登川でこんなことをしてるんや」と、人から人へ私たちの活動が広まっていくことを実感し、嬉しいと感じております。「いつもありがとうございます」と、お客様にそう声を掛ける機会が増えたことが私たちの何よりの喜びです。私たちも活動を続けるために、能登川をどんどん好きになり「これをもうと良い場所にした！」という気持ちは大きくなる一方です。そのため、営業日を重なる度に課題は見つけられます。

その中で大きな課題は、なんと「ここ」としての昭和らしさとは？というものです。それは私たちの活動理念であるにも関わらず、今までは他の「やらなければいけないこと」に少し隠れてしまっていました。お客様に「昭和のなつかしさ」をもっと感じて頂くためには、メニュー内容や内装について、考え直すべきなのかもしれません。これからは「軸をしっかりと建てる」ということを念頭に置いて活動していきます。

## 能登川のビッグニュース のとがわこどもアワー開催！

昨年7月7、8日に環境科学部環境政策・計画学科の3回生が、授業の一環として能登川商店街にて子どもや親子を対象にした様々なエコイベント「のとがわこどもアワー」を開催しました。私たちラリレトロカフェも同日にオープンしました。

初日は少し天気が悪かったものの、二日目は快晴！両日とも商店街中がたくさんの方々で賑わい、カフェも大忙しでした。7月の限定ランチである南インド風バターチキンカレーはとっても好評でした。また子どもへの企画としては流しそうめんを頂きました。各々が願い事を書いた短冊を店内にある籠に吊るしたりしながら、楽しい七夕を過ごすことができました。

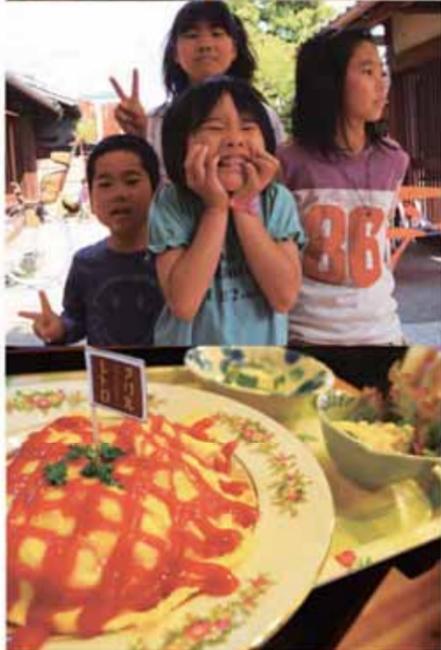
二日間あっという間に大盛況で終了し、過去最高の来客数・売り上げを記録することができました。来店してくださったお客様の皆様、商店街の方々、本当にありがとうございました！

## 自慢のお店は 自慢のお客様から

私たちの自慢はなんといっても毎回来てくださる常連さんの存在です。お店なのだから当たり前！そう思われるかもしれませんが、活動を続けられているのだと感じています。

スタッフは皆学生であり、メニューの内容や店の内装、接客サービス…どれをとっても一般のお店と比べればそう素晴らしいものとは言えないでしょう。しかしレストランのようにいかないとしても、心を込めた精一杯のおもてなしをしております。それを感じられたお客様が毎月店に足を運んで下さり、活動を応援してくださるようになったのだと考えています。

味が良いから、サービスが行き届いているから…それだけではない私たちの活動の意味を理解して下さるお客様に感謝しています。



## 懐かしさを求めて

カフェでは軽食を提供しておりますが、時々食事目的ではなく、ふらりとこちらを訪れるお客様もいらっしゃいます。それは、おじいさんとおばあさんであったり、小さなお子さんを連れたご家族や小学生の仲良しグループであったりと、毎月様々な年齢のお客様と出会います。

あるお客様は「こんなところに、こんな空間があったんですね」と昭和のレコードをまじまじと眺めておられました。また、「おばあちゃん、これなんなん？」「これはなあ、こうやって遊ぶんだよ」というようなほほえましい場面も度々見かけます。商店街の方に挨拶をした際には「今日は何日にやるん？」や「また覗きにいくわ〜頑張つてな」と暖かい声を頂くこともありました。また客席ごとには自由帳とアンケートを置き、お客様の声を頂く機会を設けております。その中には間接的だからこそ伝えてくださる意見もあります。アドバイスして下さるお客様のためにも、どんどんよりよい空間にしていこうと考えさせられます。

平成生まれで、昭和を知らない私たちがレコードから流れる昭和の歌謡曲のなかで「なつかしさ」を求めて活動している。これは少し不思議な感覚かもしれませんが、みなさん親しみを持って私たちに話しかけてくださり、活動を続けるうちにどんどん商店街になじんでいると実感しています。